

大津市景観計画ガイドライン

2 景観エリア基準編

1. 景観エリアごとの景観形成基準一覧(建築物).....1

2. 景観形成基準と解説 3

(1) 建築物の新築、改築または増築	3
1) 形態・意匠	3
2) 色彩	12
3) 敷地内における位置	21
4) 素材	25
5) 敷地内の緑化	28
6) 樹木などの保全	39
(2) 工作物の新築、改築または増築	40
1) 煙突、ごみ焼却施設、アンテナ、鉄筋コンクリート造りの柱、鉄柱その他これらに類するもの、 記念塔、電波塔、物見塔その他これらに類するもの及び高架水槽	40
2) 彫像その他これに類するもの	44
4) メリーゴーラウンド、観覧車、飛行塔、コースター、ウォーターシュートなどの遊戯施設	48
5) アスファルトプラント、コンクリートプラント、クラッシャープラントその他これらに類する製 造施設及び石油、ガス、LPG、穀物、飼料などを貯蔵する施設その他これらに類するもの	50
6) 電気供給のための電線路、有線電気通信のための線路又は空中線系（その支持物を含む。）	52
(3) 開発行為	54
1) のり面などの修景	54
2) その他	57
(4) 太陽光発電設備の新築、改築または増築	58
1) 共通事項	58
2) 地上に設置する平面的に並べるもの（平面型）	59
3) 地上に設置する支柱上に設けるもの（支柱型）	60

景観エリアの凡例

アイコン	景観エリア名	定義
緑	緑地景観エリア	緑豊かな山並みなどの美しい自然景観が多くあり、山村集落や農村集落、小・中規模の住宅地が点在しているエリア
低	低層住宅地景観エリア	低層住宅を中心としたまちなみ景観を形成しているエリア
市	市街地景観エリア	中高層の住宅や商業施設、業務施設が立地し、まちなみ景観を形成しているエリア
沿	沿道市街地景観エリア	道路の沿道において、低中層の商業施設や娯楽施設、集合住宅などが立地し、沿道景観を形成しているエリア
商	商業地景観エリア	駅周辺や幹線道路沿道の商業施設が集積し、にぎわいのある景観を形成しているエリア
工	工業地景観エリア	研究所や工場などが集積し、工業地の景観を形成しているエリア
都河	都市河川沿岸景観エリア	都市河川岸の境界から 15m までの区域 河川沿岸において、市街地から琵琶湖、山並みを見通す良好な眺望景観とともに河岸のまちなみと一体的に良好な眺望景観を形成しているエリア
自河	自然河川沿岸景観エリア	自然河川岸の境界から 15 m までの区域 山間地を流れる河川の沿岸において、峡谷の雄大な自然景観や広大な農地の広がり形成する田園景観を形成しているエリア

1. 景観エリアごとの景観形成基準一覧（建築物）

※工作物等の景観形成基準については、景観計画第2章を参照してください。

緑地景観エリア	低層住宅地景観 エリア	市街地景観 エリア	沿道市街地景観 エリア
形態・意匠 i 周辺景観との調和に配慮し、全体的にまとまりのある形態とします。 ii 周辺建築物の屋根が入母屋や切妻などである地区では、これらの屋根の形態との調和を図るため、また、周辺に山稜又は樹林地がある地区にあっては山稜又は樹木の形態との調和を図るため、原則として、勾配屋根を設けます。 iii 屋上設備は、目立たない位置に設け、建築物本体及び周辺景観との調和に配慮します。これにより難しい場合は、目隠し措置など修景措置を講じます。 iv 屋上工作物は、建築物本体と調和を図るとともに、スカイラインに与える影響を軽減させるよう、すっきりとした形態とします。 v 屋根、壁面、開口部などの意匠に配慮し、威圧感や圧迫感を軽減します。 vi 外見できる壁面などの意匠の釣合いに配慮し、全体としてまとまりのある意匠とします。	形態・意匠 i 周辺景観との調和に配慮し、全体的にまとまりのある形態とします。 ii 屋根の形状などを工夫することにより、周辺の山稜、樹林地と調和させます。 iii 歴史的な景観を有する地域にあっては、外観意匠を極力和風基調のデザインとし、1階に軒・庇を設けるなど、周辺の伝統的建築様式との調和に配慮します。 iv 屋上設備は、目立たない位置に設け、建築物本体及び周辺景観との調和に配慮します。これにより難しい場合は、目隠し措置など修景措置を講じます。 v 屋上工作物は、建築物本体と調和を図るとともに、スカイラインに与える影響を軽減させるよう、すっきりとした形態とします。 vi 屋根、壁面、開口部などの意匠に配慮し、威圧感や圧迫感を軽減します。 vii 外見できる壁面などの意匠の釣合いに配慮し、全体としてまとまりのある意匠とします。		
色彩 i けばけばしい色彩とせず、落ち着いた色彩を基調とし、周辺景観との調和を図ります。 ii 建築物に落ち着きをもたせるため、色彩の性質を十分考慮します。 iii 周辺景観と対比する色相を使用する場合は、周辺の色調及び規模に十分留意し、対比調和の効果が発揮できるよう十分考慮します。 iv 屋上工作物は、建築物本体及び周辺景観との調和を図ります。	色彩 i けばけばしい色彩とせず、落ち着いた色彩を基調とし、周辺景観との調和を図ります。 ii 建築物に落ち着きをもたせるため、色彩の性質を十分考慮します。 iii 周辺景観と対比する色相を使用する場合は、周辺の色調及び規模に十分留意し、対比調和の効果が発揮できるよう十分考慮します。 iv 屋上工作物は、建築物本体及び周辺景観との調和を図ります。		
敷地内における位置 i 周辺に与える威圧感を軽減し、かつ修景緑化を図るための空地を確保するため敷地境界線から極力後退します。 ii 道路に威圧感及び圧迫感を与えないよう、特に道路から後退します。 iii 敷地内の建築物及び工作物の規模を勘案して釣合いよく配置します。	敷地内における位置 i 歴史的な景観を有する地域にあっては、まちなみの連続性に配慮します。 ii 歴史的な景観を有する地域以外にあっては、周辺に与える威圧感を軽減し、かつ修景緑化を図るための空地を確保するため敷地境界線から極力後退します。 iii 歴史的な景観を有する地域以外にあっては、道路に威圧感及び圧迫感を与えないよう、特に道路から後退します。 iv 敷地内の建築物及び工作物の規模を勘案して釣合いよく配置します。		
素材 i 周辺景観に調和し、長期間にわたり良好な景観が維持できる素材を使用します。 ii のどかな自然地又は集落地にあっては、不調和かつ浮出した印象にならないよう、冷たさを感じさせる素材又は反射光のある素材を壁面などの大部分にわたって使用することは避けます。	素材 i 歴史的な景観を有する地域にあっては、周辺の伝統的建築様式との調和に配慮した素材を使用します。 ii 歴史的な景観を有する地域以外にあっては、周辺景観に調和し、長期間にわたり良好な景観が維持できる素材を使用します。		
敷地の緑化措置 i 周辺景観と融和し、良好な景観の形成及び周辺環境との調和を図れるよう、樹種の構成及び樹木の配置を考慮した植栽を行います。 ii 周辺への威圧感、圧迫感、突出感を和らげるよう、高さを勘案した樹種及び樹木を選び、植栽位置を考慮します。 iii 緑豊かな景観とするため、敷地の20%以上を緑化します。 iv 植栽は現存植生を考慮し、周辺環境と調和する樹種とします。	敷地の緑化措置 i 周辺景観と融和し、良好な景観の形成及び周辺環境との調和を図れるよう、樹種の構成及び樹木の配置を考慮した植栽を行います。 ii 周辺への威圧感、圧迫感、突出感を和らげるよう、高さを勘案した樹種及び樹木を選び、植栽位置を考慮します。 iii 周辺環境と調和した緑豊かな景観とするため、敷地の緑化に努めます。		
樹木などの保全措置 i 敷地内に生育する樹林は、保存するよう努めます。やむを得ず伐採するときは、必要最小限にとどめます。 ii 樹姿や樹勢が優れた良好な樹木がある場合は、修景に生かすよう配慮します。ただし、これにより難しい場合は、移植の適否を判断し、その周辺に移植するよう努めます。移植後は十分な管理を行い、樹勢の回復を図ります。	樹木などの保全措置 i 周辺景観と融和し、良好な景観の形成及び周辺環境との調和を図れるよう、樹種の構成及び樹木の配置を考慮した植栽を行います。 ii 周辺への威圧感、圧迫感、突出感を和らげるよう、高さを勘案した樹種及び樹木を選び、植栽位置を考慮します。 iii 周辺環境と調和した緑豊かな景観とするため、敷地の緑化に努めます。		

商業地景観エリア

形態・意匠

- i 周辺景観との調和に配慮し、全体的にまとまりのある形態とします。
- ii 屋根の形状などを工夫することにより、周辺の山稜、樹林地と調和するよう努めます。
- iii 歴史的な景観を有する地域にあっては、周辺の伝統的建築様式との調和に配慮します。
- iv 屋上設備は、目立たない位置に設け、建築物本体及び周辺景観との調和に配慮します。これにより難しい場合は、目隠し措置など修景措置を講じます。
- v 屋上工作物は、建築物本体と調和を図るとともに、スカイラインに与える影響を軽減させるよう、すっきりとした形態とします。
- vi 屋根、壁面、開口部などの意匠に配慮し、威圧感や圧迫感を軽減します。
- vii 外見できる壁面などの意匠の釣合いに配慮し、全体としてまとまりのある意匠とします。

色彩

- i けげげげしい色彩とせず、落ち着いた色彩を基調とし、周辺景観との調和を図ります。
- ii 建築物に落ち着きをもたせるため、色彩の性質を十分考慮します。
- iii 周辺景観と対比する色相を使用する場合は、周辺の色調及び規模に十分留意し、対比調和の効果が発揮できるよう十分考慮します。
- iv 屋上工作物は、建築物本体及び周辺景観との調和を図ります。

敷地内における位置

- i 歴史的な景観を有する地域にあっては、まちなみの連続性に配慮します。
- ii 歴史的な景観を有する地域以外にあっては、周辺に与える威圧感を軽減し、かつ修景緑化を図るための空地を確保するため敷地境界線から極力後退します。
- iii 歴史的な景観を有する地域以外にあっては、道路に威圧感及び圧迫感を与えないよう、特に道路から後退します。
- iv 敷地内の建築物及び工作物の規模を勘案して釣合いよく配置します。

素材

- i 歴史的な景観を有する地域にあっては、周辺の伝統的建築様式との調和に配慮した素材を使用します。
- ii 歴史的な景観を有する地域以外にあっては、周辺景観に調和し、長期間にわたり良好な景観が維持できる素材を使用します。

敷地の緑化措置

- i 周辺景観と融和し、良好な景観の形成及び周辺環境との調和が図れるよう、樹種の構成及び樹木の配置を考慮した植栽を行います。
- ii 周辺への威圧感、圧迫感、突出感を和らげるよう、高さを勘案した樹種及び樹木を選び、植栽位置を考慮します。
- iii 周辺環境と調和した緑豊かな景観とするため、敷地の緑化に努めます。

樹木などの保全措置

- i 樹姿又は樹勢が優れた良好な樹木がある場合は、修景に生かすよう配慮します。ただし、これにより難しい場合は、移植の適否を判断し、その周辺に移植するよう努めます。移植後は十分な管理を行い、樹勢の回復を図ります。

工業地景観エリア

形態・意匠

- i 周辺景観との調和に配慮し、全体的にまとまりのある形態とします。
- ii 屋根の形状などを工夫することにより、周辺の山稜、樹林地と調和させます。
- iii 屋上設備は、目立たない位置に設け、建築物本体及び周辺景観との調和に配慮します。これにより難しい場合は、目隠し措置など修景措置を講じます。
- iv 屋上工作物は、建築物本体と調和を図るとともに、スカイラインに与える影響を軽減させるよう、すっきりとした形態とします。
- v 屋根、壁面、開口部などの意匠に配慮し、威圧感や圧迫感を軽減します。
- vi 外見できる壁面などの意匠の釣合いに配慮し、全体としてまとまりのある意匠とします。

色彩

- i けげげげしい色彩とせず、落ち着いた色彩を基調とし、周辺景観との調和を図ります。
- ii 建築物に落ち着きをもたせるため、色彩の性質を十分考慮します。
- iii 周辺景観と対比する色相を使用する場合は、周辺の色調及び規模に十分留意し、対比調和の効果が発揮できるよう十分考慮します。
- iv 屋上工作物は、建築物本体及び周辺景観との調和を図ります。

敷地内における位置

- i 周辺に与える威圧感を軽減し、かつ修景緑化を図るための空地を確保するため敷地境界線から極力後退します。
- ii 道路に威圧感及び圧迫感を与えないよう、特に道路から後退します。
- iii 敷地内の建築物及び工作物の規模を勘案して釣合いよく配置します。

素材

- i 周辺景観に調和し、長期間にわたり良好な景観が維持できる素材を使用します。

敷地の緑化措置

- i 周辺景観と融和し、良好な景観の形成及び周辺環境との調和が図れるよう、樹種の構成及び樹木の配置を考慮した植栽を行います。
- ii 周辺への威圧感、圧迫感、突出感を和らげるよう、高さを勘案した樹種及び樹木を選び、植栽位置を考慮します。
- iii 周辺環境と調和した緑豊かな景観とするため、敷地の緑化に努めます。

樹木などの保全措置

- i 樹姿又は樹勢が優れた良好な樹木がある場合は、修景に生かすよう配慮します。ただし、これにより難しい場合は、移植の適否を判断し、その周辺に移植するよう努めます。移植後は十分な管理を行い、樹勢の回復を図ります。

都市河川沿岸景観エリア

自然河川沿岸景観エリア

- i 建築物の壁面は河川側の敷地境界から極力後退し、低・中木又は生垣による緑化を行うことにより、背後の山並みと一体的な自然景観を形成するよう工夫します。
- ii 河川に面する敷地内の空地は、適切な緑化を行うことなどにより、緑豊かなものとします。

2. 景観形成基準と解説

(1) 建築物の新築、改築または増築

1) 形態・意匠

1) - 1 形態

景観形成基準

○周辺景観との調和に配慮し、全体的にまとまりのある形態とします。

景観エリア

： 緑 低 市 沿 商 工 都河 自河

▶ 解説

建築物の形態は、周辺景観を形成している自然景観や既存の建築物などの形態・意匠に配慮したものとします。また、外壁に付帯する施設・設備についても、建築物と一体的にデザインします。

特に、大規模建築物は、周辺に多大な影響を及ぼすことから、ヒューマンスケール（人間の体を設計基準にして決めた空間）に配慮したデザイン的な工夫を行うことが必要です。

■ 建築物の形態への配慮

建築物の形態は、周囲の建築物との連続性や統一感が感じられるものにします。



■ 建築物のスケール感への配慮

大規模な建築物の長大な壁面や大面積の壁面は、周辺地域に圧迫感を与えたり、周辺地域のスケール感を損なうことのないよう、工夫します。



建築物の高層部の壁面を後退させることで、圧迫感を抑え、まちなみの持つスケール感を維持した例

1) ー2 屋根の形態

景観形成基準

○周辺建築物の屋根が入母屋や切妻などである地区では、これらの屋根の形態との調和を図るため、また、周辺に山稜又は樹林地がある地区にあっては山稜又は樹木の形態との調和を図るため、原則として、勾配屋根を設けます。

景観エリア	:	緑	低
-------	---	---	---

○屋根の形状などを工夫することにより、周辺の山稜、樹林地と調和させます。

景観エリア	:	低	市	沿	工
-------	---	---	---	---	---

○屋根の形状などを工夫することにより、周辺の山稜、樹林地と調和するよう努めます。

景観エリア	:	商
-------	---	---

▶ 解説 勾配屋根は長い歴史のなかで受け継がれてきた形態であり、大津市においても多くの地域で景観の特徴の一つとなっています。また勾配屋根は、景観の背景となる山なみや樹木の勾配（角度）をもった輪かくにも調和しており、人々の心に奥深く溶け込んだ日本建築の象徴ともいえます。

勾配をもった山並みや樹木を背景とした地域や勾配屋根をもつ建築物で形成された地域では、違和感をかもし出すような屋根の形態は避けます。



地域固有の伝統的な入母屋造の屋根デザインを踏襲することで、特徴ある集落景観を維持している例



集合住宅の屋根を切妻の勾配屋根とすることで、隣接する伝統的な木造建築物との調和したデザインとした例



地域特性である酒蔵のまちの屋並みの連続性に配慮し、勾配屋根とした工場の例

1) - 3 屋上設備

景観形成基準

○屋上設備は、目立たない位置に設け、建築物本体及び周辺景観との調和に配慮します。これにより難しい場合は、目隠し措置など修景措置を講じます。

景観エリア : 緑 低 市 沿 商 工 都河 自河

▶ **解説** 屋上に設置される設備機器や塔屋などは、通りから見えない位置に設置したり、できるかぎり建築物と一体的にデザインすることで、全体的にまとまりのある形態となるよう配慮します。やむを得ず通りから望見できる箇所に設備を設置する場合は、その設備が景観を阻害しないよう、壁面を立ちあげたり（パラペット）、ルーバーなどの目隠し措置を講じます。

特に、大津市の景観の特徴である背景の山並みや琵琶湖への眺望景観を阻害しないよう配慮します。（※眺望景観については、「5 眺望景観基準編」を参照のこと）

■ 建築物と一体的にデザインする

屋上設備は、建築物などと一体的な印象となるよう、デザインを工夫します。



建築物の外壁と形態・意匠を合わせることで、建築物の屋根のようにデザインしたパラペットの例

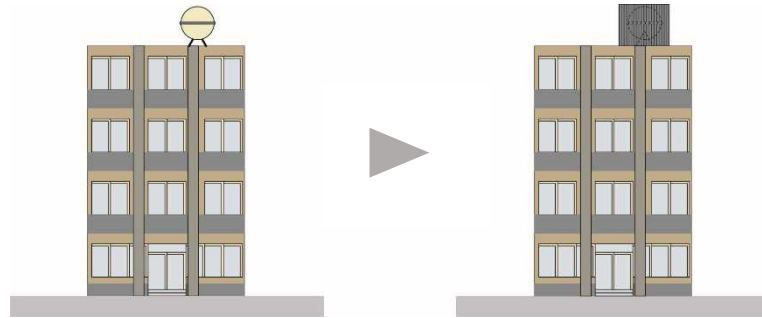


太陽光パネルを屋根材として一体的にデザインした例

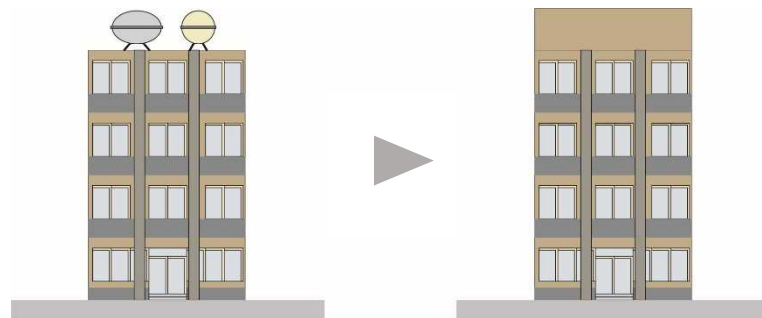
参 考	パ ラ ペ ッ ト	建物の屋上、テラスのへり、橋梁の両側などに設け、人の落下を防ぐ手すり・勾欄（こうらん）。
	ル ー バ ー	日除け・雨除け・通風・換気などの目的で、建物の開口部に取り付ける一定幅の羽板を平行に並べたよろい戸状のものや、照明調整などの目的で、金属や樹脂の薄い板を格子状に組んだもの。 羽板の取付角度によって、風・雨・光・埃・人の目線などを、選択的に遮断したり透過したりすることができる。

■ 屋上の施設を隠す

やむを得ず露出する場合は、壁面を立ちあげたり（パラペット）、ルーバーなどの目隠し措置を講じ、建築物などとの一体的な印象となるよう配慮します。



通りから屋上設備が見える場合は、ルーバーなどで修景します。



屋上に多数の施設がある場合は、パラペットを立ち上げて屋上全体を目隠しします。



屋上の壁面（パラペット）を高く立ち上げる
ことにより、屋上の設備を目隠しした例



ルーバーにより、屋上の設備を目隠しした例



屋上の設備をパンチングメタルのフェンスにより目隠しした例



1) - 4 屋上工作物

景観形成基準										
○屋上工作物は、建築物本体と調和を図るとともに、スカイラインに与える影響を軽減させるよう、すっきりとした形態とします。										
景観エリア		:	緑	低	市	沿	商	工	都河	自河

1) - 5 意匠

景観形成基準	解説
○屋根、壁面、開口部などの意匠に配慮し、威圧感や圧迫感を軽減します。 景観エリア : 緑 低 市 沿 商 工 都河 自河	①
○外見できる壁面などの意匠の釣合いに配慮し、全体としてまとまりのある意匠とします。 景観エリア : 緑 低 市 沿 商 工 都河 自河	②
○歴史的な景観を有する地域にあっては、外観意匠を極力和風基調のデザインとし、1階に軒・庇を設けるなど、周辺の伝統的建築様式との調和に配慮します。 景観エリア : 低 市 沿 ○歴史的な景観を有する地域にあっては、周辺の伝統的建築様式との調和に配慮します。 景観エリア : 商	③

▶ 解説 ① 圧迫感や威圧感の軽減

建築物の意匠は「1) - 1 形態」と同様に、周辺環境を形成している自然環境や既存の建築物などの形態・意匠に配慮したものとし、特に、大規模な建築物の長大な壁面や大面積の壁面は、その壁面の印象が平滑・単調なものとならないよう、陰影効果を考慮して、表面の形状や色彩・素材などを工夫します。

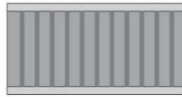
表面に柔和な陰影を持たせることで、圧迫感や威圧感を軽減し、周辺の景観との調和を図ります。同時に側面・背面の意匠にも配慮します。

■ 建築物のデザインへの配慮

開口部のデザインや壁面の形状、色彩、素材などの意匠を工夫することで、周辺の景観との調和を図ります。



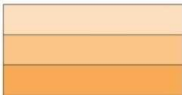
開口部などの活用



目地やはつり仕上げの活用



タイルなど素材の印象の活用



色彩のトーンの変化の活用



開口部の意匠を工夫し、壁面を凹凸のあるデザインとすることにより圧迫感を緩和した例



壁面を分節化することで周囲への圧迫感を緩和した例
格子状のルーバーを設けることで壁面に変化を与えるとともに、歴史的まちなみとの調和を図っている



スリットを入れた壁面により圧迫感を緩和した例



上層階の外壁の色彩を変化させることで、圧迫感を緩和した例

▶ 解説 ② まとまりある意匠

特に大規模建築物は良く目立つことから、人目に付きやすい道路に面した正面部分だけではなく、側面や背面部の意匠についても配慮し、建築物全体にまとまりを持たせます。

外壁に付帯する室外機、屋外階段、配管設備などは、原則として外壁面に露出させないものとします。やむを得ず露出する場合は、建築物と一体的にデザインしたり、壁面と同色にするなどの景観的处理を行います。

また、ベランダなどについては、建築物との調和に配慮するとともに、洗濯物などが道路から直接見えにくい形態となるように工夫します。

■ 建築物のデザインへの配慮

開口部のデザインや壁面の形状、色彩、素材などの意匠を工夫することで、周辺の景観との調和を図ります。



正面の意匠のみに工夫をこらし、側面や背面の意匠に工夫のないものは、深みがなく味気ない景観となりがちです。

建築物の側面や背面の意匠についても、正面の意匠とのバランスをとり、まとまりを持たせます。

室外機などへの配慮の例



バルコニーに目隠し板を設置することにより
室外機などの設備を隠した例



ルーバーなどにより室外機などの設備を隠した
例

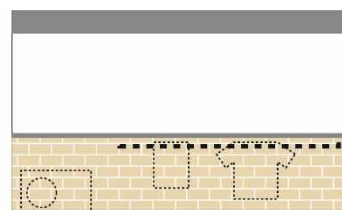
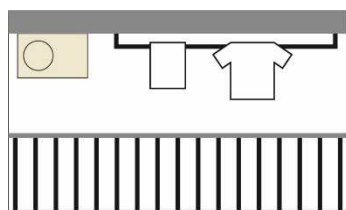
室外機などへの配慮の例



鉄骨を露出した屋外階段は避け、建物と一体的な意匠・色彩とします。やむを得ず露出する場合は、ルーバーなどで覆います。



ベランダなどへの配慮の例



洗濯物やエアコンの室外機が通りから見える構造、意匠は避けます。

物干しや室外機を低い位置に設置し、外壁のデザインに配慮したパネルなどで覆うことで、すっきりとまとまりのある景観とします。



ベランダを外壁と一体的にデザインした例

▶ 解説 ③ 歴史的な景観を継承する意匠

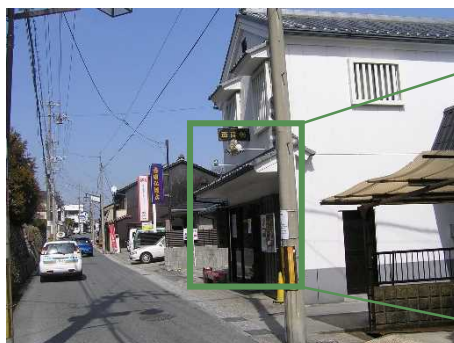
歴史的な景観を有する地域では、その歴史的な景観を保全・継承するため、周辺の伝統的建築様式と合わせた建築様式・意匠とします。やむを得ず伝統的な建築様式と合わせることが出来ない場合は、外観の意匠を和風基調のデザインとし、1階部分に軒・庇を設けるなど工夫します。



歴史的まちなみ景観との調和に配慮し、切妻平入り、和瓦葺き、虫籠窓など伝統的木造建築の様式を取り入れた例



歴史的まちなみ景観との調和に配慮し、土蔵建築の様式を基調とした形態とした例



隣接する伝統的な木造建築物に合わせて、傾斜屋根や一階部に軒を設けた例



2) 色彩

2) - 1 使用できる色彩

景観形成基準

- けばけばしい色彩とせず、落ち着いた色彩を基調とし、周辺景観との調和を図ります。

景観エリア : 緑 低 市 沿 商 工 都河 自河

- ▶ 解説 けばけばしい色彩とは、周辺の景観との調和を乱す色彩を指します。また、落ち着いた色彩とは、空や樹木の緑、土や水などの自然の色と馴染みやすい、暖色系の低彩度の色を基本とします。

建築物などの外壁の色彩の基調色・副調色については、彩度3以下とします。

明度は、極端に高いもの（参考値：9～10）や、あるいは極端に低いもの（参考値：1～2）の使用は原則として避けるものとします。

強調色についてはこの限りではありませんが、基調色と配色（組み合わせ）した場合の印象が、周辺景観と調和した落ち着いたものになるよう、配慮します。

配色構成

基調色 (ベースカラー)	最も大きな面積を占め、イメージ全体を左右する。 個性の強すぎない物を選ぶのが一般的。 基本的な割合は、全体の約70%。
副調色 (サブカラー)	基調色と強調色の間を調和させ安定感を与えるために 落ち着きのある色を選ぶのがよい。 基本的な割合は、全体の約25%。
強調色 (アクセントカラー)	小さな面積に用いて全体を引き締めるために使う。 単調になりすぎた配色に変化や動きを与えるため、比 較的ハッキリした色を選ぶとよい。 基本的な割合は、全体の約5%。

※基本的な割合は目安であり、デザインなどにより色数や面積比は変化します。

また、以下の場合には、この限りではありません。

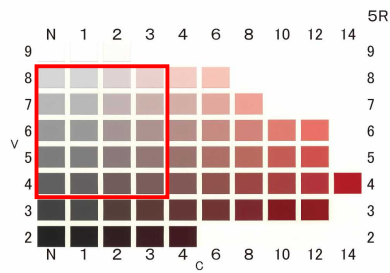
- ・ 一戸建ての住宅等、小規模なもので、アースカラー等、一定の配慮がなされているもの。
- ・ 弁柄、石材など地域固有の素材（主として自然素材）や、これを模したものを使用する場合。
- ・ 橋梁などで地域とのなじみが深く、地域のイメージの核となっていたり、ランドマークとなっているもの。
- ・ 地区計画や面的開発の区域などを対象に、一定の広がりの中で地域特性を踏まえた色彩基準が定められ、良好な景観形成が図られる場合。

使用可能な色の範囲

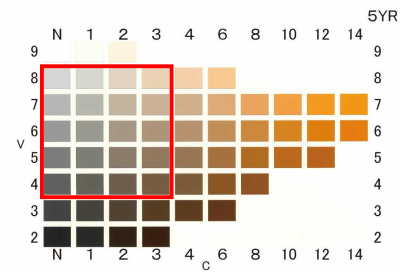
色彩の数は無限ともいえますが、ここでは参考として J I S（日本工業規格）に定められた基本色相（マンセルの主要 10 色相）における等色相面を用いて、使用可能な色の範囲を示しています。赤枠内が建物などの外壁の使用可能範囲です。

下図は印刷によるもので、正確な色ではないため、実際の色は色票により確認してください。

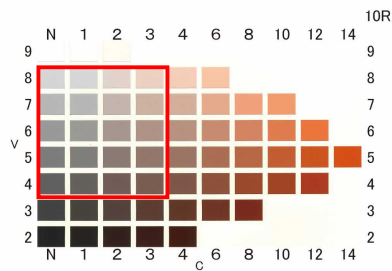
5R



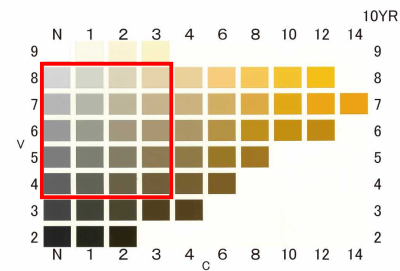
5YR



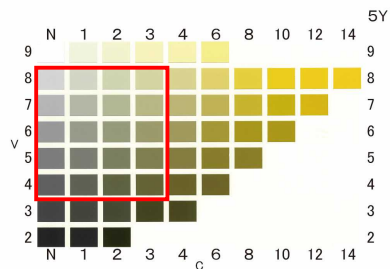
10R



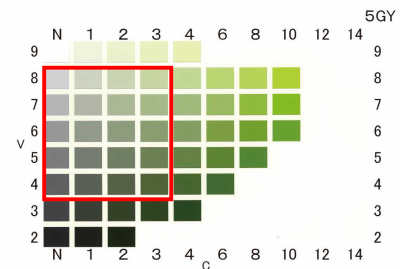
10YR



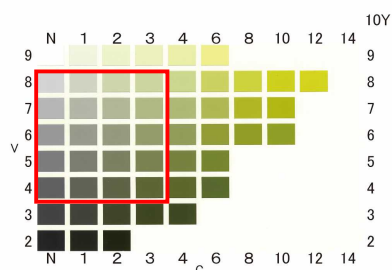
5Y



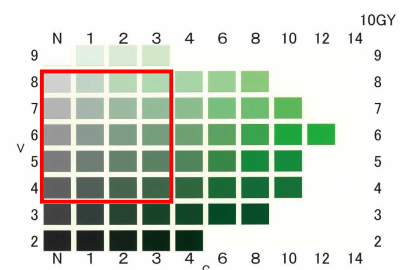
5GY



10Y



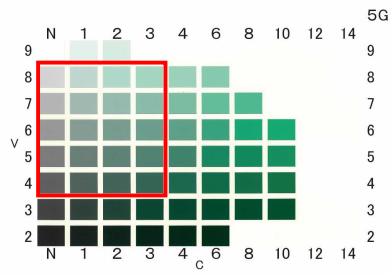
10GY



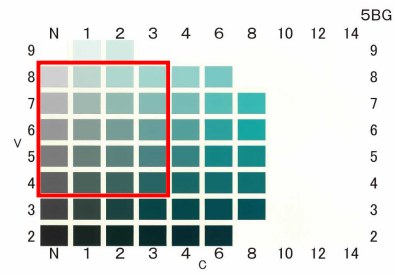
参考 等色相面

ある色相について、明度と、彩度の度合いを並べたもの。
縦軸を明度、横軸を彩度としており、最高彩度は色相によって異なります。
色相環で選ばれた純色は等色相面上で最も高い彩度となります。
黒から白にかけての色は無彩色（白、灰色、黒）です。無彩色以外が有彩色です。

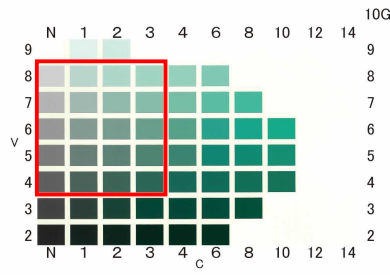
5G



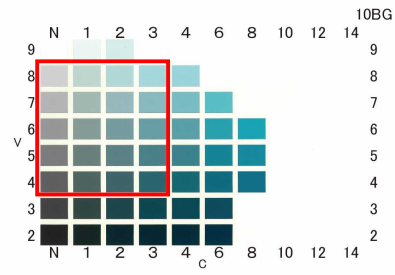
5 BG



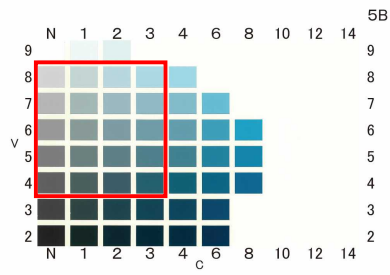
10G



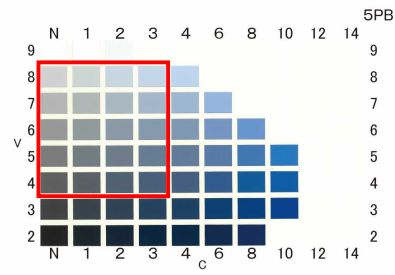
10BG



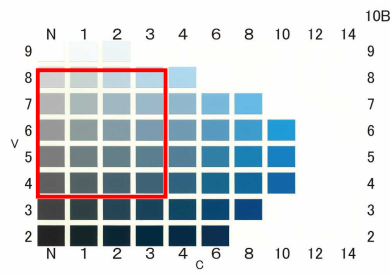
5B



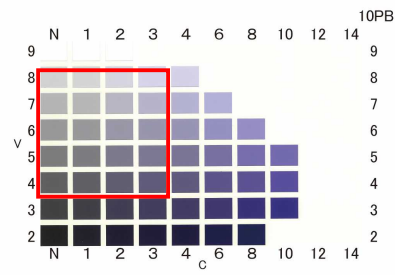
5PB



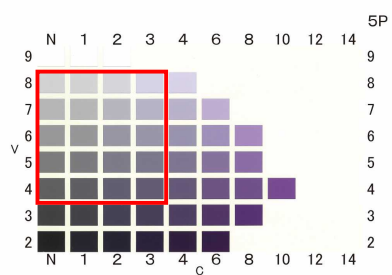
10B



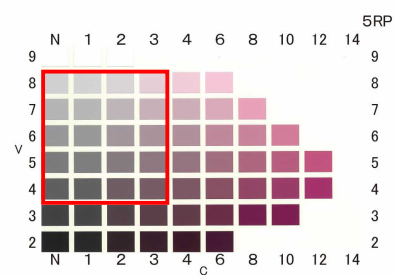
10PB



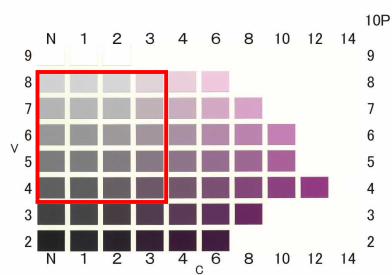
5P



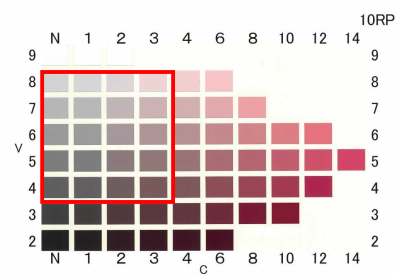
5RP



10P



10RP



周辺景観と調和した色彩のデザインを行うにあたっては、移り変わる自然の色を尊重し、使い慣れた親しみのある色彩を使い、騒がしいと感じる色彩は取り除いていく必要があります。

■ 自然景観に配慮し、潤いを感じさせる色彩を用いる

建築物の外装の色彩は、自然の緑の鮮やかさを越える高彩度色の使用は控えます。



自然の緑を引き立てる低彩度色の外装の例



背後の山並みに溶け込む、微妙な色彩の外装の例

■ 慣れ親しんだ色彩を用いる

土壁や銀鼠色の屋根瓦、弁柄など、地域で伝統的に使われてきた建材の色彩など、慣れ親しんだ慣例色を使うことを基本とします。



地域で伝統的に使われてきた建材の色彩など、慣れ親しんだ慣例色を用いた例

■ 騒色を取り除く

景観を混乱させている、見る人に騒がしさや不快感を与える色を騒色と呼びます。場の雰囲気になじみがない、独りよがりな主張をする色彩の使用は避けます。



2) - 2 配色

景観形成基準	解説
○ 建築物に落ち着きをもたせるため、色彩の性質を十分考慮します。 景観エリア : 緑 低 市 沿 商 工 都河 自河	①
○ 周辺景観と対比する色相を使用する場合は、周辺の色調及び規模に十分留意し、対比調和の効果が発揮できるよう十分考慮します。 景観エリア : 緑 低 市 沿 商 工 都河 自河	②

▶ 解説 ① 色彩の性質への配慮

複数の色彩を使用する場合は、それぞれの色彩の面積の比が、「9 : 1」、「8 : 2」、「7 : 3」など明確な方が美しく快い印象となります。

大津市における色彩の面積比は、「基調色：（副調色＋その他の色）＝ 8 : 2」を目安とします。

各立面の屋根及び外壁を合わせた見付け方向の4 / 5以上面積は、彩度3以下かつ、明度3～8の色彩とします。ただし、屋根にだけ基調色より暗い色彩を用いる場合は、この限りではありません。



8 : 2 (4 : 1)

② 色彩調和

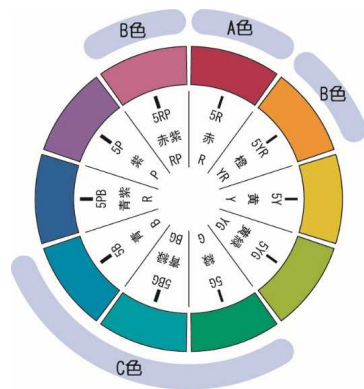
心地よい感じをあたえるような色の組み合わせを「色彩調和」と呼び、「類似型調和」、「対比型調和」、「同色型調和」、「トーン調和」などが代表的なものとなります。

景観の色彩について考える場合は、「類似型調和」、「同色型調和」、「トーン調和」などの融合型調和を中心とし、まとまりのある刺激の少ない穏やかな配色により落ち着いた景観となるよう配慮します。

また、全体を引き締める強調色（アクセントカラー）を使用する場合は、「対比型調和」に考慮して用います。

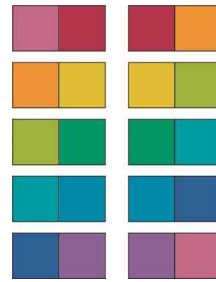
類似型調和	・色相環上で隣接する色である類似色相、近似色相の組み合わせ。 ・明度・彩度は異なっても、色相が近い範囲に収まっている。 ・1つの色相、又は類似の色相を用い、トーンに変化を持たせる。 ・木や土を建材としてしようしていた日本の伝統的なまちなみは、Y R系を中心とした色相調和型が多く存在する。
同色型調和	・同一の色相でトーンに変化を持たせた色の組み合わせ。 ・同じような近い色彩範囲でまとまっている。 ・まとまった統一感のある配色となるが、単調になる恐れもある。
トーン調和	・同じトーンで明度や彩度を調整した組み合わせ。 ・色相はいろいろあるが、トーンが近い範囲に収まっている。 ・日本の伝統的なまちなみではほとんど見かけないが、ペイントを使用する欧米では、多く見ることができる。
対比型調和	・色相環上で反対の位置にある対立色相の組み合わせ

色相環上での色彩調和の例



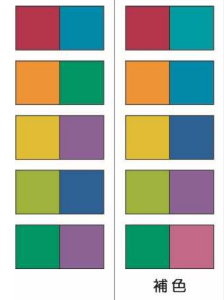
色相環上での類似調和の例

A 色と B 色の関係

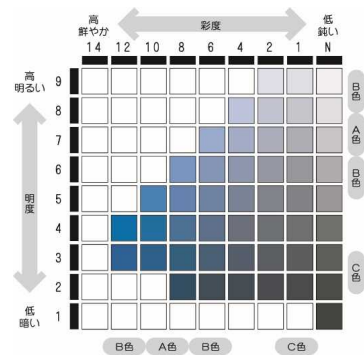


色相環上での対比調和の例

A 色と C 色の関係

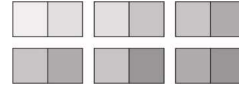


明度と彩度上での色彩調和の例



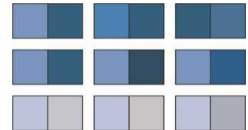
明度の類似調和の例

A 色と B 色の関係



彩度の類似調和の例

A 色と B 色の関係



明度の対比調和の例

A 色と C 色の関係



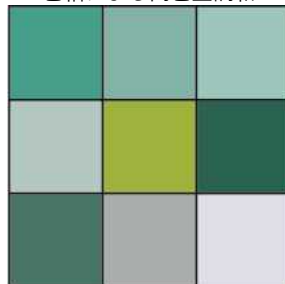
彩度の対比調和の例

A 色と C 色の関係

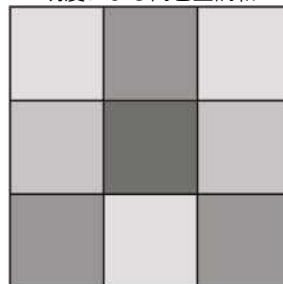


対比調和と同色型調和の例

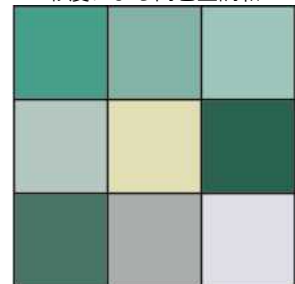
色相による同色型調和



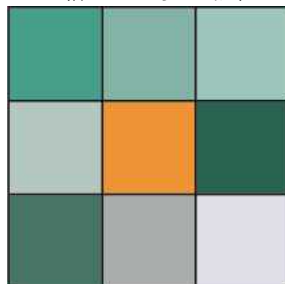
明度による同色型調和



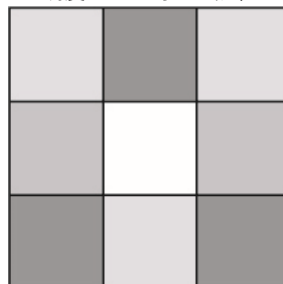
彩度による同色型調和



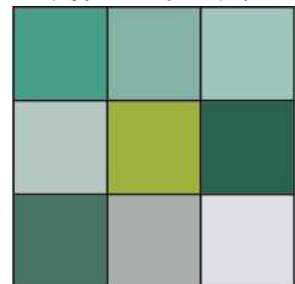
色相による対比型調和



明度による対比型調和



彩度による対比型調和



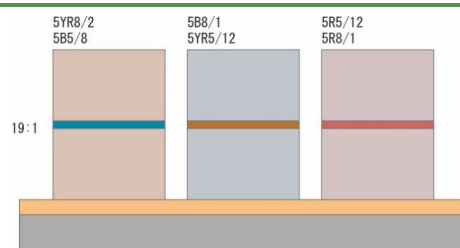
参 考

トーン

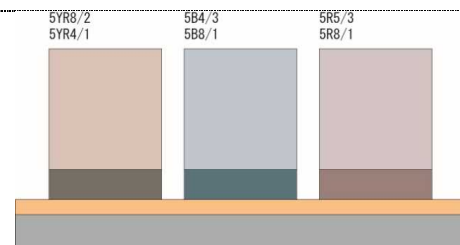
マンセル表色系の明度と彩度を合わせて「トーン分類」され、「うすい」「明るい」「くすんだ」などと表現されます。

景観に調和する配色のポイント

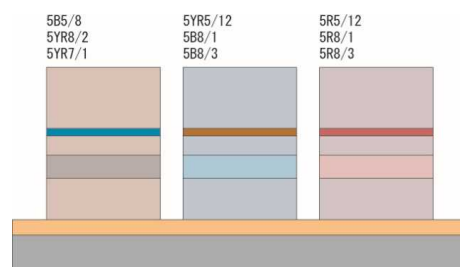
周辺景観と対比する色相（強調色・アクセントカラー）を使用する場合、その分量は全体の約5%とすることが望まれます。



また、複数の色を用いる場合は、多色を避け、2～3色程度とすると、周辺との調和を図りやすくなります。その際、明度の低い色を下層に持ってくると、安定した印象を感じさせることができます。

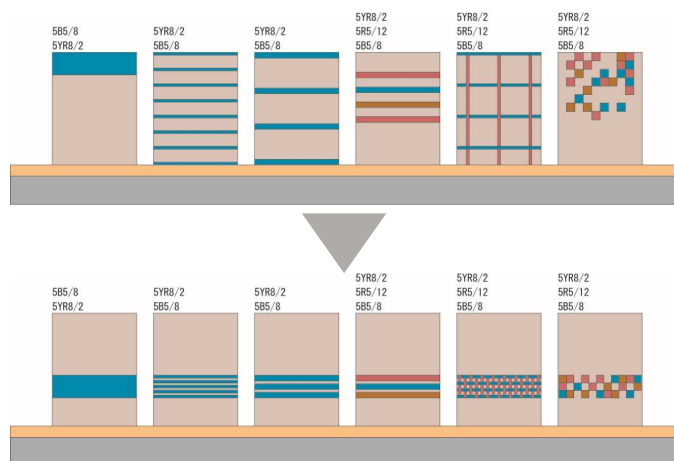


3色以上を用いる場合は、落ち着いた色（明度4～8、彩度3以下程度）を基調とし、アクセントカラーとの対比調和に配慮します。



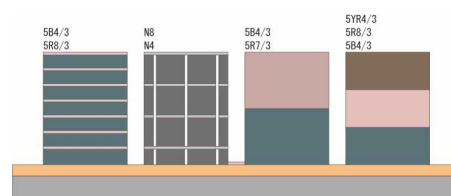
見付面積の1/5以内であっても、周辺の景観と対比するアクセントカラーを上部に多用したり、ボーダー状、格子状、モザイク状などに配することは避けます。

ボーダー状、格子状、モザイク状など、模様状に色彩を配する場合は、地の色（基調色）を含めた模様全体の面積が1/5となるよう配慮します。



周辺景観と対比する色相を用いて、模様状に色彩を配する場合や写真等を用いた外壁の意匠は、地の色（基調色）を含めた模様全体を、基調色以外の色彩の面積とします。

落ち着いた色彩同士の配色であっても、色相や明度の差の大きな組み合わせは周辺景観と調和が図りにくいため、原則として避けます。



参照： P12「（1）建築物の新築、改築または増築 2）色彩」

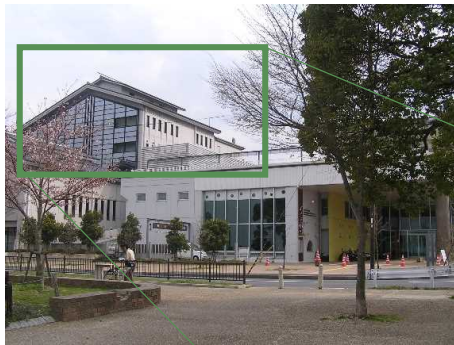
2) - 3 屋上工作物の色彩

景観形成基準

- 屋上工作物は、建築物本体及び周辺景観との調和を図ります。

景観エリア	:	緑	低	市	沿	商	工	都河	自河
-------	---	---	---	---	---	---	---	----	----

- ▶ 解説 屋上工作物の色彩は、建築物本体や周辺景観との調和に十分配慮します。



建築物と調和した屋上工作物の色彩の例



参照： P3「(1) 建築物の新築、改築または増築 1) 形態・意匠」

3) 敷地内における位置

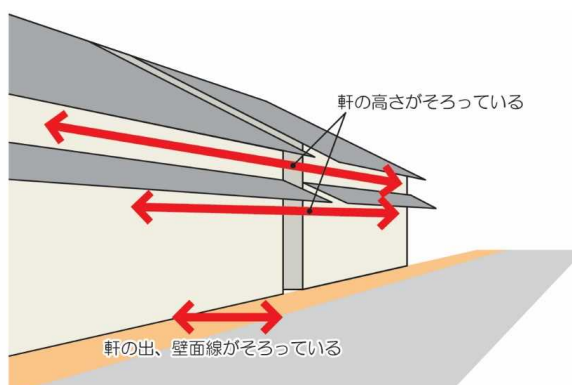
3) - 1 敷地内における位置

景観形成基準	解説
○ 敷地内の建築物及び工作物の規模を勘案して釣り合いよく配置します。 景観エリア : 緑 低 市 沿 商 工	①
○ 歴史的な景観を有する地域にあっては、まちなみの連続性に配慮します。 景観エリア : 低 市 沿 商	②

▶ 解説 ① 周辺の地形や建築物への配慮

物などの位置や規模などについても十分考慮して配置するものとします。

歴史的な景観を有する地域では、類似した建築物の形態・意匠や道路に対して揃えられた壁面線の連なりにより、統一感のあるまちなみが形成されています。このような地域では、まちなみの連続性を保つため、周辺の建築物などの形態や軒の高さ、軒の出、壁面線に合わせた形態・意匠とします。



▶ 解説 ② 歴史的景観の連続性への配慮

伝統的な様式の建築物などが概ね2棟以上連続してある通りに面している場合は、それらの伝統的な様式の建築物などからなる歴史的な景観の連続性に配慮します。

また、通り沿いに1棟しかない場合においても、景観上特に重要であると判断される場合は配慮が必要です。

業務街のメインストリートの沿道など、壁面線や建物の高さが揃っており、良好な景観を形成していると考えられる地域においても、まちなみの連続性に配慮するものとします。



伝統的な様式の建築物などが2棟以上連続してある通りに面している場合は、それらの伝統的な様式の建築物などからなる歴史的な景観の連続性に配慮します。



通り沿いに1棟しかない場合においても、景観上特に重要であると判断される場合は配慮が必要です。



周辺の伝統的な建築様式を踏襲し、壁面線や軒線が揃った統一感と連続性のあるまちなみ景観を形成した例



複数の住棟を、屋根の勾配の向きと壁面の位置に変化を持たせながら配置することで、変化のある街区景観を形成した例
また、勾配屋根が背後の山並みと調和したスカイラインを形成しています

3) - 2 敷地境界線からの後退

景観形成基準

- 周辺に与える威圧感を軽減し、かつ修景緑化を図るための空地を確保するため敷地境界線から極力後退します。

景観エリア : 緑 工

- 道路に威圧感及び圧迫感を与えないよう、特に道路から後退します。

景観エリア : 緑 工

- 歴史的な景観を有する地域以外にあっては、周辺に与える威圧感を軽減し、かつ修景緑化を図るための空地を確保するため敷地境界線から極力後退します。

景観エリア : 低 市 沿 商

- 歴史的な景観を有する地域以外にあっては、道路に威圧感及び圧迫感を与えないよう、特に道路から後退します。

景観エリア : 低 市 沿 商

▶ 解説 大規模建築物などは、その大きさが周辺の景観に圧迫感や威圧感を与えることがないよう、できるかぎり敷地境界線から後退します。

敷地内に生じた空地には、周辺景観との調和に配慮し、積極的に修景緑化を行います。

特に、道路などの公共用地との敷地境界線からは、できるかぎり大きく後退し、建築物などの威圧感・圧迫感を軽減するだけでなく、ゆったりとした道路景観を形成します。

沿道建築物の高さ（H）と前面の空間の幅（D）との比（D/H）は、道路の景観の性格を大きく左右するものであるため、周辺の景観や土地利用とあわせて配慮する必要があります。

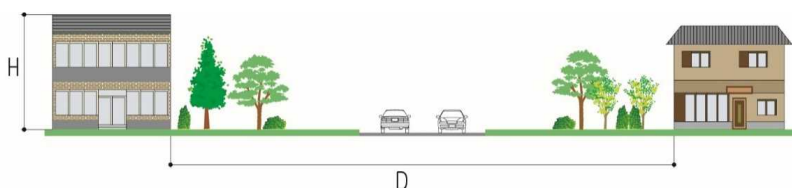
D/H=4 以上では周りを囲まれた印象はなく、D/H=1~2 程度の場合、心地よい囲繞感が存在するといわれています。D/H=1 以下となる場合は、ともすると圧迫感、威圧感を与える可能性があるため、親密な居心地の良さが感じられるよう、配慮が必要です。

関連： P 29 「（1）建築物の新築、改築または増築 5）敷地内の緑化」

建物にはさまれたD/Hと閉鎖感

D/H ≥ 4

- ・周辺景観と一体となる
- ・閉鎖感の減少
- ・囲い庭、広場の D/H の上限



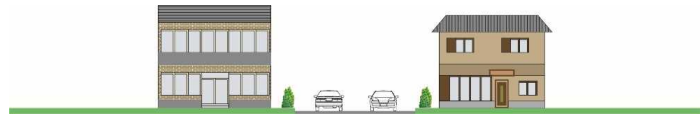
D/H = 2

- ・向かいの建物が見やすい
- ・広々とした感じ



D/H=1.5

- ・よい広場の D/H
(ジッテ) 京の町
家のスケール



D/H=1

- ・向かいの前面が目
に入る
- ・高さとの空間のほど
よい釣り合い



D/H<1

- ・向かいの立面の半
分程度が目に入る
- ・近接し狭苦しい感
じ
- ・閉所恐怖症の感覚
が生じる (D/H
=0.5)



出典：建築計画教科書（建築計画教科書研究会著／彰国社）



建物（高層マンション）の前面に空地を設け、広場として整備することで、建築物の圧迫感を緩和するとともにまちなみに潤いを提供した例



壁面後退部分を緑化や歩行者のための空間とすることで、建築物の圧迫感を緩和するとともにまちなみに潤いを提供した例



建物（業務ビル）の前面に空地を設け、植栽帯を整備することで、建築物の圧迫感を緩和するとともにまちなみに潤いを提供した例



低層部をピロティとし、テーブルや椅子などを配置することで、建築物の圧迫感を緩和するとともにまち（商業地域）ににぎわいを創出した例

参 考

大規模建築物	高さ 10mを越える建築物・工作物など
ジ ッ テ	カミロ・ジッテ (1843-1903) 著書“Der Städte-Bau nach seinen Künstlerischen Grundsätzen”1889 (SD 選書 175「広場の造形」) 大規模な伝統的公共空間（広場、道、都市の構成）を分析し、その美しさの理由を探し、デザイン原則を導き出す（適切なスケールで囲い込まれた空間の重視）
ピ ロ テ ィ	建物の二階以上に室を設け、一階は柱を残して吹きさらしにしておく建築様式。また、その脚のような柱。

4) 素材

4) - 1 素材

景観形成基準	解説
○ 周辺景観に調和し、長期間にわたり良好な景観が維持できる素材を使用します。 景観エリア : 緑 工	①
○ 歴史的な景観を有する地域にあっては、周辺の伝統的建築様式との調和に配慮した素材を使用します。 景観エリア : 低 市 沿 商	②
○ 歴史的な景観を有する地域以外にあっては、周辺景観に調和し、長期間にわたり良好な景観が維持できる素材を使用します。 景観エリア : 低 市 沿 商	③

▶ 解説 ① 長期間にわたり景観を維持できる素材の使用

景観の構成要素には、自然や文化・歴史的要素、さらには「これからつくられるもの」も含まれます。「素材」も景観の一部として、長期にわたり役割を担うものであることから、長い年月や時間とともに変化することで景観と馴染む材料、長い期間、その性能や様相を保ち、維持する材料、さらに長い期間、材料の状態や性能を維持するためのメンテナンスが行える材料を選択することが重要です。

古くから用いられてきた石やレンガなどの外装材は、周辺景観への調和を図りやすいだけでなく、時間とともに味わいが生じ、長い期間にわたって良好な、風格の景観の形成に寄与する素材といえます。

② 自然素材の使用

特に歴史的な景観を有する地域では、古くから身近にある石や木、竹などの自然素材による建築物などが地域の景観を特徴づけています。

歴史的な景観を有する地域においては、原則として周辺の伝統的建築様式に応じた自然素材を用います。やむを得ず自然素材以外の素材を使用する場合は、その質感や色彩など、周辺の伝統的建築様式や背景となる景観（山並みなど）との調和に十分配慮します。

③ 景観特性や自然の色彩への配慮

歴史的な景観を有する地域以外における建築物の外壁や塀などの外構部の素材は、周辺地域の景観特性や背景となる自然の色彩に配慮して選択することが望まれます。また、反射ガラスや、光沢のある材料などの使用は原則として避けます。やむを得ず使用する場合は、周辺景観との調和に十分配慮します。

■ 外壁材を工夫する

周辺地域の景観を構成する建築物などの色合いや背景となる自然の色彩・素材感のものを使用します。

■ 時間の経過とともに味わいの出る素材を使用する

耐久性及び耐候性に優れた、経年変化により景観に魅力と風格を与える素材により、長期間の景観の保全を図ります。



周辺の伝統的な建築物と同様の素材・様式を用いることで、歴史的まちなみを保全した例



地域を特徴づける石垣を維持・保全・活用することで歴史的まちなみを保全した例



石、板、土などの自然素材による塀などを連続させることで歴史的まちなみを保全した例



地域を特徴づける土塀を維持・保全・活用することで、歴史的まちなみを保全した例



背後の山並みに溶け込む、微妙な色合いの変化を持たせたタイルにより仕上げた例



外観にレンガを活用することで、時間の経過とともに建築物に味わいを持たせ、まちなみに歴史性や風格を与えている例

4) - 2 使用を避ける素材

景観形成基準

- のどかな自然地又は集落地にあっては、不調和かつ浮出した印象にならないよう、冷たさを感じさせる素材又は反射光のある素材を壁面などの大部分にわたって使用することは避けます。

景観エリア	:	緑
-------	---	---

- ▶ 解説 のどかな自然地や、土壁や板壁、日本瓦、樹木といった柔らかさや暖かさを感じさせる素材で形成された集落地では、周辺の自然地や集落地の落ち着いた雰囲気になじみにくく、景観印象を減殺させる恐れがあるため、アルミやステンレスなどの金属やガラスなどの反射性・光沢性のある素材を壁面などの大部分にわたって使用することを避けます。

5) 敷地内の緑化

5) - 1 配植

景観形成基準

- 周辺景観と融和し、良好な景観の形成及び周辺環境との調和が図れるよう、樹種の構成及び樹木の配置を考慮した植栽を行います。

景観エリア : 緑 低 市 沿 商 工

- 周辺環境と調和した緑豊かな景観とするため、敷地の緑化に努めます。

景観エリア : 低 市 沿 商 工

- ▶ 解説 樹木の配置は、緑に囲まれた景観を形成するため、通りからの視線に配慮しながら検討します。

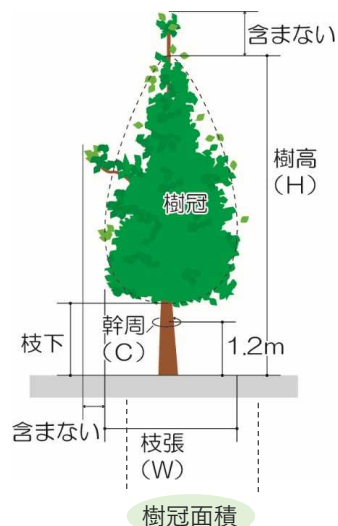
また、河川に隣接した地区では、背景となる山並みや周辺の田園風景などに配慮して、自然景観と調和する樹種の選択や樹木の配置を検討します。

景観阻害要素となる恐れのある大規模建築物などや駐車場の周囲については、道路沿いを中心に中高木植栽などによる遮蔽的な植栽を行います。

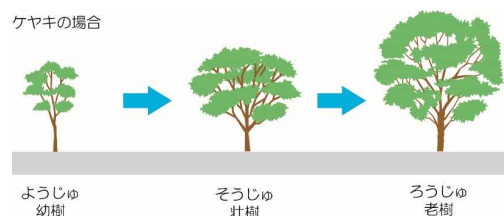
樹種については、周辺地域の既存の植生を考慮し、周辺の景観との調和が得られるよう配慮します。個々の樹木の性質を踏まえ、季節の変化や樹木などの成長を考慮するとともに、建築物などの規模に合った樹高や樹冠のボリューム、複数の樹種の組み合わせを検討します。

竣工時はもちろんのこと、10年後、20年後、50年後と、長い時間の経過を含めた展望に立ち、樹齢の構成を考える必要があります。

寸法規格基準の測定法

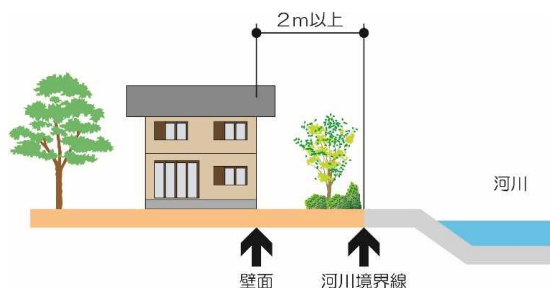


樹形の変遷の例



■ 河川に面した敷地の緑化

河川に面した敷地は、敷地境界から極力後退するとともに、積極的に緑化します。周辺の自然環境との調和に配慮し、低、中木を中心に植栽を行います。



河川に面した空地に花木の植栽を行うことで、緑豊かな景観を創出した例



河川側の敷地境界に中・低木、生垣等により緑化することで、まちなみ景観にうるおいを与えている例

■ 道路に面した敷地の緑化

道路に面した敷地には、積極的に生垣や前栽を設けます。

特に工場などの大規模な建築物などの道路に面した敷地には、長大な壁面や連続する塀垣などによる圧迫感や閉鎖感の緩和、うるおいのあるまちなみ景観を形成に配慮し、適正な緑化を行います。



住宅地において、道路側に生垣や前栽の緑を配置することでまちなみ景観にうるおいを与えている例



大規模な工場の道路に面する敷地に植栽を行うことで、建築物の圧迫感を和らげ、まちなみ景観にうるおいを与えている例

■ 周辺景観と調和した緑化

敷地前面に街路樹や湖岸緑地などがある場合は、これらと調和した緑化、一体的な緑化を行います。

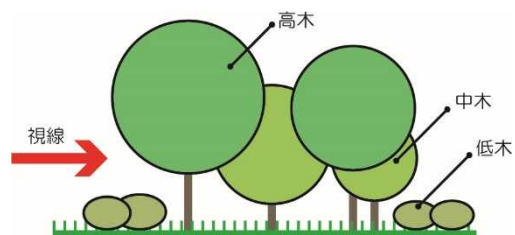


湖側緑地に面した敷地を緑化し、湖岸の親水空間（公共空間）と一体となった緑豊かな水辺景観を形成している例

■ 景観阻害要素の遮蔽

駐車場、駐輪場、ゴミ集積所など景観阻害要素になる恐れのある施設については、その周辺に遮蔽効果の高い緑化を行います。

遮蔽を主体とする樹林の垂直構成



住宅地内の商業施設において、駐車場や施設の周囲に植栽を行い、落ち着いた住宅地景観と調和させている例

5) - 2 樹高

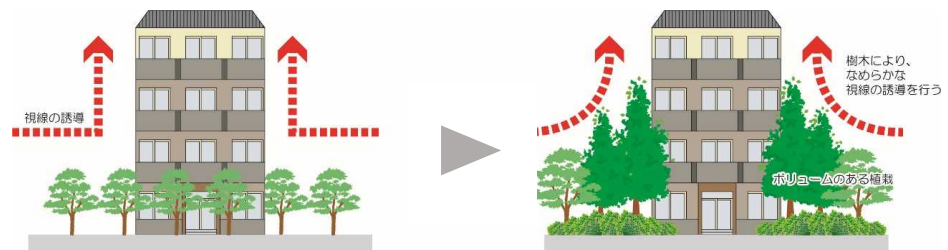
景観形成基準

- 周辺への威圧感、圧迫感、突出感を和らげるよう、高さを勘案した樹種及び樹木を選び、植栽位置を考慮します。

景観エリア : 緑 低 市 沿 商 工 都河 自河

▶ **解説** 周辺景観への影響を緩和するため、敷地内の建築物などの高さに応じて植栽を工夫します。

特に突出した印象を与える恐れのある建築物などについては、周辺に植栽した樹木の高さを、建築物から遠ざかるに従って低くすることで、滑らかな視線誘導を行い、その印象を緩和するなどの工夫が求められます。



5) - 3 緑化の割合

景観形成基準

- 緑豊かな景観とするため、敷地の20%以上を緑化します。

景観エリア	:	緑
-------	---	---

- ▶ **解説** 敷地の境界部以外の場所についても、積極的に緑化を進め、周辺景観との調和を図るとともに、質の高い、緑豊かな景観の形成に配慮します。



緑化面積の算定基準

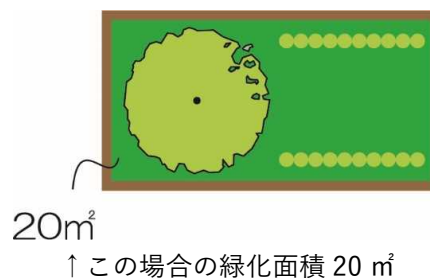
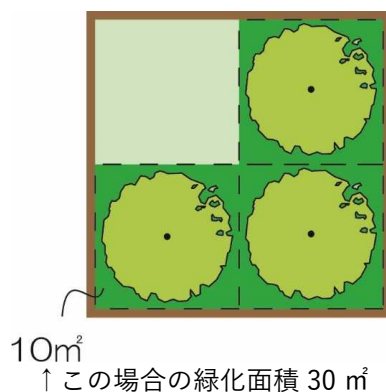
緑化面積は、次に掲げるものの面積の合計とします。ただしそれぞれの面積が重複する場合は、どちらか一方の面積を緑化面積とします。

植栽は道路に面した部分に重点的に配置するものとします。

- ア 樹木が生育する10㎡以上の区画された土地であって、次の基準の一の基準に適合するもの、および樹冠の面積の大きさから見て同等と認められるもの。

1) 10㎡あたり高木が1本以上。

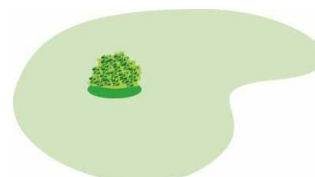
2) 20㎡あたり高木が1本以上、及び低木が20本以上。



- イ 高木又は低木が単独で植栽された土地で、高木にあつては1本当たり10㎡、低木にあつては0.5㎡を植栽された土地の面積。ただし、樹冠面積がそれぞれの土地の面積を超えるものにあつては樹冠面積を緑化面積とします。

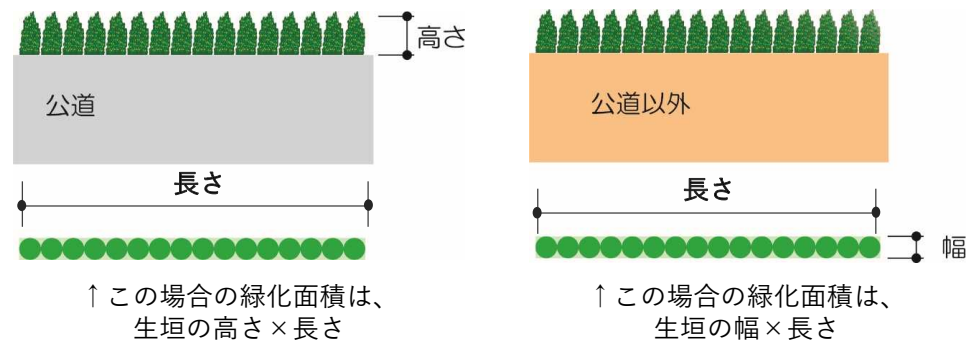


↑この場合の緑化面積は、
高木1本当たり10㎡



↑この場合の緑化面積は、
低木1株当たり0.5㎡

- ウ 低木又は芝その他の地被植物（除草などの手入れがなされる見込みのものに限る）で覆われている土地。ただし、生け垣であって公道に接する部分については、立面積を緑化面積とします。



- エ 花壇で、維持管理が十分される見込みのもの。
- オ のり面の保護のために造成された雑草地で、維持管理が十分される見込みのもの。
- カ 噴水、水流、池、滝、築山、彫像、灯籠、石組、飛石、日陰棚などの修景施設。

緑化面積の算定時の注意

- ・ 緑化面積は、公道に接する場合の生垣をのぞき、水平投影面積とします。
- ・ 緑化面積に占める高木の割合は30%以上を標準とします。敷地条件などによりやむを得ない場合はこの限りではありません。
- ・ バルコニー、出窓などの下部（水平投影部分）の植栽については、緑化面積に算入しません。
- ・ つるものは低木として扱います。
- ・ 樹種が高木でも、低く刈り込んで使用する場合は低木として、また、生け垣として使用する場合は生け垣として扱います。
- ・ 調整池で護岸を植栽などにより修景を行わない場合は池とは見なしません。また、調整池で常時は水が無く芝生地などとする場合で維持管理が十分なされる見込みのものにあつては緑地として扱います。
- ・ 苗木床、野菜畑、温室・ビニールハウスなどは植栽された土地とは見なしません。

参 考	高	木	成木に達したときの高さが4 m 以上で植栽時 2 m 以上の樹木をいう。
	低	木	高木以外の樹木をいう。以下同じ。

5) - 4 現存植生への配慮

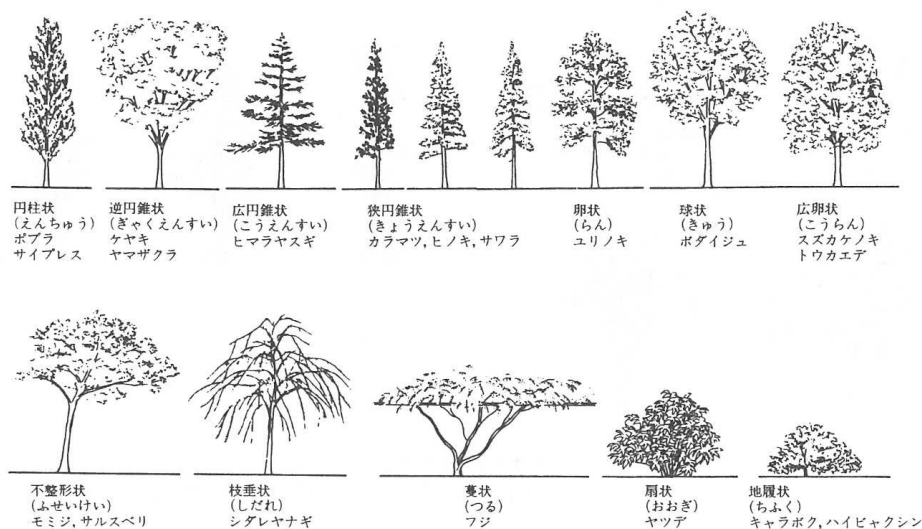
景観形成基準

- 植栽は、現存植生を考慮し、周辺環境と調和する樹種とします。

景観エリア : 緑

- ▶ **解説** 既存植生は、一般にその地域の自然条件に最も適した植物が長年にわたり安定的に成育しているものであり、その地域の景観を特色づけているものと考えられます。緑化に用いる樹種は、原則としてその地域の現存植生を目安に選定します。樹形（円筒形・円錐形・球形・円蓋系・卵形・盃形など）や樹高、樹性（陰陽性、耐寒性、移植難易度など）などを十分考慮して、バランスのとれた植栽を行います。

樹形（樹冠）の基本形



出典：造園施行管理技術編（監修／国土交通省都市局公園緑地課）

参考 陰 陽 性

樹木の光に対する要求性に関する性質。

陰樹とは、光に対する要求性が比較的低い樹木のこと。対立する語に陽樹（生育に最低限必要な光合成量が比較的多いタイプの樹木）がある。

一般的に使用される緑化木、造園樹木で滋賀県内に生育可能なものの例

(琵琶湖景観形成地域基準 解説／滋賀県より)

凡例 常：常緑樹 落：落葉樹 広：広葉樹 針：針葉樹 高：高木 低：低木
○：陽樹 ●：陰樹 ★：中庸樹

難：移植困難 易：移植容易 中：移植中庸

※樹木の特徴は、原則として造園施行管理技術編（監修／国土交通省都市局公園緑地課）による。

但し下線の樹木の特徴は緑化樹木ガイドブック（財団法人建設物価調査会）による。

樹種名	科 名	常落	広針	高木低木	樹高	陰陽度	生長度	耐煙性	耐潮性	乾湿性	移植難易	機能的・美的特性	摘 要
アオキ	みずき科	常	広	低	2～3	●	速	強	強	中	易	実物,食餌植物	雌雄異株
アオギリ	あおぎり科	落	広	高	15	○	速	強	強	中	易	緑陰樹	大木の移植可能中国原産
アカマツ	まつ科	常	針	高	30	○	速	弱	弱	乾	中	食餌植物	マツクイ虫の害大
アキニレ	にれ科	落	広	高	15	○	やや速	強	強	湿	中	緑陰樹	
アケビ	あけび科	落	蔓			○			中	中		パーゴラ、垣根（植栽密度2～4 鉢/10 m ² ）	雌雄同株だが他花受粉 アケビの他にミツバアケビがあり、同様に利用
アジサイ	ゆきのした科	落	広	低	2	★	速	中	弱	湿	易	花木	
アセビ	つつじ科	常	広	低	2～5	●	遅	強	中	乾	中	花木,生垣	有毒で植物柵内に植栽
アベリア	すいかずら科	常	広	低	1～5	○	速	強	強	乾	易	花木,生垣,刈込物	
アラカシ	ぶな科	常	広	高	10～20	★	速	強	中	中		生垣	
イイギリ	いいぎり科	落	広	高	10	○	速	中	中	中	易	実物緑陰,食餌植物,樹肌が美しい	雌雄異株
イタリヤマナラシ (イタリアボブラ)	やなぎ科	落	広	高	15～25	○	速	強	中	湿	易		雌雄異株 中央アジア原産
イチョウ	いちょう科	落	針	高	30	○	速	強	中	中	易	緑陰,紅葉,食餌植物	大木の移植可能, 雌雄異株,中国原産
イヌツゲ	もちのき科	常	広	高	10	●	遅	強	強	中	中	生垣,曲幹,刈込、トピアリー、食餌植物	陽地に耐える 雌雄異株
イヌマキ	まき科	常	針	高	5～10	●	遅	中	強	湿	中	生垣,曲幹,刈込食餌植物	雌雄異株
イロハカエデ (イロハミジ・ヤマミジ)	かえで科	落	広	高	10	★	速	弱	弱	湿	易	緑陰,斜幹,紅葉観賞	別名イロハミジ,ヤマミジ,変種にベニシダレ,アオシダレ,ノムラ
ウバメガシ	ぶな科	常	広	高	15	★	遅	強	強	中	難	生垣,斜幹,刈込物	大気汚染に耐える やや日陰に耐える
ウメ	ばら科	落	広	高	2～10	○	遅	中	強	中	易	斜幹,刈込物,花木（花色白桃赤）,食餌植物	変種にブンゴウウメ,コウバイなどあり
エゴノキ	えこのき科	落	広	高	7～8	○	中	中	強	中	中	花木,食餌植物	半陰地にも生育,果皮有毒
エニシダ	まめ科	落	広	低	1～3	○	速	強	強	中	難	花木	海岸植栽樹,欧州原産
エノキ	にれ科	落	広	高	20	○	遅	中	強	中	やや易	緑陰樹,食餌植物	大気汚染に弱い、
エンジュ	まめ科	落	広	高	10	○	速	強	中	中	中	花木	中国原産
オオデマリ	すいかずら科	落	広	低	1.5～3	○	遅		中	中	易	公園・緑地、庭園、建物周り、花木、添景樹など。花木（白）	日陰地では花付きがわるい春に強剪定を行うと花がみられない
カイズカイブキ	ひのき科	常	針	高	10	○	速	強	強	乾	中	刈込物,生垣	赤星病中間寄生,独特な樹形
カクレミノ	うこぎ科	常	広	高	10	●	遅	強	強	湿	難		
カツラ	かつら科	落	広	高	25	★	速	中	中	湿	中	新葉が美しい	乾燥地にも耐える,変種シダレカツラあり,雌雄異株
カナメモチ	ばら科	常	広	高	10	★	速	強	強	中	易	曲幹,刈込物,生垣樹	陽地に耐える
カヤ	いちい科	常	針	高	30	●	遅	強	強	湿	中	生垣,食餌植物	深根性,雌雄異株, ズンド物とする
カロリナボブラ	やなぎ科	落	広	高	20	○	速	強	強	湿	易		早急緑化用,工場緑化に適す。

参 考 耐 煙 性 樹木の排気ガスや大気汚染に対する性質。

耐 潮 性 樹木の潮風などに対する性質。

樹種名	科 名	常落	広針	高木低木	樹高	陰陽度	生長度	耐煙性	耐潮性	乾湿性	移植難易	機能的・美的特性	摘 要
カンチク	いね科	竹		高	5	★	速		強	中	易	庭園、公園・緑地、生垣、根締め、景観樹など。	光条件の耐性が大きく日陰地にも耐える
キツタ	うごぎ科	常	蔓			●	中	強	強	中	易	壁体、樹幹にからまる	刈込みに耐える
キャラボク	いちい科	常	針	低	2～3	★	遅	中	中	中	中	曲幹刈込物、生垣	日射に耐える
キョウチクトウ	きょうちくとう科	常	広	高	3～5	○	速	強	強	車乞	難	花木（花色、赤、桃、白）	陽地に耐える 雌雄異株
キンモクセイ	もくせい科	常	広	高	10	★	遅	中	中	中	中	生垣、刈込物、花木	大気汚染に耐える
クスノキ	くすのき科	常	広	高	35	★	速	強	強	中	中	食餌植物	インドベルシャ原産
クチナシ	あかね科	常	広	低	1.5～2.0	★	速	強	中	中	易	花木、生垣、食餌植物、刈込物	日光地に耐える、芳香あり
クヌギ	ぶな科	落	広	高	15	○	速	中	中	湿	難	食餌植物	中国原産、雌雄異株
クマザサ	いね科	笹		低	0.5～1.5	●	速	強	中	乾	易	地被（高さ0.5～1.0m 植栽密度25株/m ² ）	東京辺苗木は防寒
クロガネモチ	もちのき科	常	広	高	10～15	★	遅	強	強	中	易	実物、食餌植物	陰地に耐える、ヤエクチナシについて品質規格あり
クロチク	いね科	竹		高	5	○	速		中	中	易	庭園、建物周り、景観樹、生垣など。	やや日陰に耐える
クロマツ	まつ科	常	針	高	35	○	速	中	強	乾	中	食餌植物、防潮林曲幹	日光地に耐える
ゲッケイジュ	くすのき科	常	広	高	10	●	速	強	強	中	難		大木移植可能、雌雄異株
ケヤキ	にれ科	落	広	高	30	○	速	弱	中	中	中	緑陰樹	ハチクの黒化形
コウヤマキ	こうやまき科	常	針	高	30～40	●	中	中	中	湿	難	生垣、花木	マツクイ虫の害大、大木移植可能
コデマリ	ばら科	落	広	低	1～2	○	速				易	食餌植物	武者立のもの多し
コナラ	ぶな科	落	広	高	15	○	中	弱	弱	乾	中	生垣	地中海沿岸原産、雌雄異株
コノデカシワ	ひのき科	常	針	高	10	★	遅	中	中	湿	難	花木	大木の移植可能
コブシ	もくれん科	落	広	高	10～15	★	速	中	中	湿	難	曲幹	壮年後陽樹、樹形美しい
ゴウヤマツ	まつ科	常	針	高	20	★	遅	中	中	乾	難	花木（花色多し）、生垣、食餌植物	中国原産
サザンカ	つばき科	常	広	高	10	●	遅	中	強	中	易	花木（花色多し）、生垣、地被（15cmほどに刈込可）	やや日陰に耐える。
サツキツツジ	つつじ科	常	広	低	0.5～1.0	★	中	強	中	中	易	花木	雪国では雪囲い必要
サトザクラ	ばら科	落	広	高	5～10	○	速	中	弱	中	中	花木	中国西北部原産
サルスベリ	みそはぎ科	落	広	高	6～7	○	中	中	強	乾	中	花木（花色は赤、桃、白）、斜幹	近縁にシデコブシあり
サワグルミ	くるみ科	落	広	高	15	○	速		中	湿	易	公園・緑地、水辺、街路樹（シナサワグルミ）、景観樹など。	近似にヒメコマツあり
サワラ	ひのき科	常	針	高	30	★	速	中	中	中	易	景観樹、生垣、刈込物、食餌植物	
サンゴジュ	すいかずら科	常	広	高	10	●	速	強	強	湿	易	生垣、刈込物、食餌植物	秋冬の紅葉が美しい
シダレザクラ	ばら科	落	広	高	5	○	速		弱	中	難	公園・緑地、庭園、花木	品種に松月、普賢象、関山などあり、大枝剪定は避ける
シダレヤナギ	やなぎ科	落	広	高	15	○	速	強	強	湿	易	枝が下垂する。花木（白、淡紅、紅色、一重、八重）	大木の移植可能、花が白いのシロバナサルスベリ、中国南部原産
シモクレン	もくれん科	落	広	高	5	○			弱	中	易	花木（濃紫）・芳香。庭園、公園・緑地、花木、景観樹	湿地には強いが乾燥地での生育は良くない、テッポウムシやコウモリガの害に注意、シナサワグルミは中国原産
シャクナゲ	ツツジ科	常	広	低	1.5～3	○	遅		弱	やや強		公園・緑地、庭園、建物周り、花木、添景樹、景観樹	ヒヨクヒバ、シノブシバ、ヒムロ、園芸品種
シャリンバイ	ばら科	常	広	低	2	○	遅	強	強	中	難	刈込物、花木	種や品種により、樹高や花の大きさ、花色などに差異がある
シュロ	やし科	常	高	10～15	★	遅	強	強	強	中	易	食餌植物	マルバシャリンバイはやや寝性
シラカシ	ぶな科	常	広	高	20	★	速	強	強	中	中	高垣用、食餌植物	雌雄異株
シンジュ	にがき科	落	広	高	15～25	○	速	強	中	中	中		やや陰地に耐える
													別名ニワウルシ。中国原産、雌雄異株

樹種名	科 名	常落	広針	高木低木	樹高	陰陽度	生長度	耐煙性	耐潮性	乾湿性	移植難易	機能的・美的特性	摘 要
ジンチョウゲ	じんちょうげ科	常	広	低	1	●	遅	強	中	湿	難	花木（赤,白）	香木,若木の移植は易,花が白いの はシロバナジンチョウゲ,中国,台湾原 産,雌雄異株
スイカズラ	すいかずら科	半常	広			○	速	中	強	中	易	垣に絡ませる（20cm 間隔植 栽）花木地被（植栽密度 25 本/m ² ）	
スギ	すぎ科	常	針	高	40	○	速	弱	中	湿	難	生垣,刈込物,食餌植物	幼樹耐陰性
スズカケノキ （ブラタナス）	すずかけのき科	落	広	高	20~30	○	速	強	中	中	易		近縁にアメリカスズカケ,モミジバ スズカケあり,西アジア・ヨーロツ パ原産
スダジイ	ぶな科	常	広	高	25	★	速	強	強	中	易	高垣,食餌植物	成木陽地に耐える,大木移植可能
センダン	せんだん科	落	広	高	15	○	速	中	強	湿	中	縁陰樹,食餌植物	
ソテツ	そてつ科	常	針	高	3~8	★	遅	強	強	乾	易	装飾	本州中部では防寒,雌雄異株
ソメイヨシノ	ばら科	落	広	高	10	○	速	弱	弱	中	中	花木	大枝剪定は避ける 公園などで見るものにホソバタイ サンボクがある
タイサンボク	もくれん科	常	広	高	20	○	中	中	強	中		花木	北米南部原産
ツガ	まつ科	常	針	高	15	★	やや遅		中	中	やや難		生長はやや遅い,幼木は耐陰性が強 いが,成木は好陽
ツゲ	つげ科	常	広	高	5	★	遅	強	強	中	難	刈込物生垣,食餌植物	低木として用いる,陽光地に耐える
ツルバラ	ばら科	落	蔓			○			中	中		花の大きさや色が豊富。パー ゴラやトレリス、アーチ、ポー ール（植栽密度 1~2 鉢/m ² ）	日当たりや風通しのよい肥沃な土 壌を必要とし、病虫害も多いため 管理に注意
トウカエデ	かえで科	落	広	高	15	○	速	強	中	中	易	生垣,紅葉	大気汚染に割合強い,中国原産雌雄 異株
ドウダンツツジ	つつじ科	落	広	低	1~5	○	遅	中	弱	中	易	刈込物,生垣,花木（白）,紅葉	半陰地にも可, ベニドウダン（赤花）あり
トウネズミモチ	もくせい科	常	広	高	8		速	強	強	中	易	花木,生垣	
トチノキ	とちのき科	落	広	高	25		速	中	中		難	花木（花色赤,白）	陽光地に耐える,花が赤いのはベニ バナトチノキ
トベラ	とべら科	常	広	低	2~5		速	強	強	中	中	生垣,食餌植物	雌雄異株
ナツツタ	ぶどう科	落	蔓	/		○	速	強	強	乾	易	壁体に絡ませる,紅葉	別名ツタ
ナツツバキ	つばき科	落	広	高		○	速					花木	
ナリヒラダケ	いね科	竹		高		○	速	強	中	乾	中		
ナンキンハゼ	とうだいぐさ科	落	広	高	15	○	速	中	強	湿	難		紅葉が美しい,水湿地に適す 中国原産
ナンテン	めぎ科	常	広	低	2~4	●	遅	中	中	湿	易	実物,生垣,食餌植物	シロナンテン,シナナンテンあり
ニセアカシア	まめ科	落	広	高	25	○	速	強	中	乾	易	花木	変種にトゲナシニセアカシアあり, アメリカ原産
ネズミモチ	もくせい科	常	広	高	3~4	●	速	強	強	中	易	生垣,食餌植物	陽光地に耐える
ネムノキ	まめ科	落	広	高	10	○			中	中	易	花木（淡紅色）	樹齡は比較的短い 剪定を嫌う
ノウゼンカズラ	のうぜんかずら科	落	蔓			★	速				易	花木	中国原産
ハイビャクシン	ひのき科	常	針	低	0.6	○	遅	中	強	乾	難	地被（高さ 30~40cm）,飛 砂防止	赤星病中間寄生, 流枝形とする
ハクチョウゲ	あかね科	常	広	低	0.6~1.0	★	中	中	弱	中	易	花木,生垣	雌雄異株
ハクモクレン	もくれん科	落	広	高	15	★	遅	中	中	中	難	花木	変種にサラサモクレンあり 中国中部原産
ハナミズキ （アメリカヤマボウ シ）	みずぎ科	落	広	低	5~10	○		弱			難	花木（花色白桃赤）,紅葉,実物	北米原産
ハマヒサカキ	つばき科	常	広	高	5	●	遅	強	強	中	易	生垣,刈込物	造園では低木として用いることが 多い,雌雄異株寒地性,別名エルム
ハンノキ	かばのき科	落	広	高	10	○	速		中	湿	易	公園・緑地、水辺、砂防樹、 砂防や肥料木として利用できる, ヤマハンノキは乾燥地に耐える	
ヒイラギ	もくせい科	常	広	高	4~8	★	遅	強	強	中	壊易	生垣,刈込物,食餌植物	大木の移植可能,雌雄異株
ヒイラギナンテン	めぎ科	常	広	低	1.5~2.0	●	遅	強	中	湿	中		

樹種名	科 名	常 落	広 針	高 木 低 木	樹高	陰 陽 度	生 長 度	耐 煙 性	耐 潮 性	乾 湿 性	移 植 難 易	機能的・美的特性	摘 要
ヒイラギモクセイ	もくせい科	常	広	高	5	●	やや速	強	やや強	湿	易	生垣	ヒマラヤ,中国原産
ヒサカキ	つばき科	常	広	高	5	★	遅	強	強	中	易	生垣,刈込物,食餌植物	陽光地に耐える,造園では低木,雌雄異株,中国原産
ヒノキ	ひのき科	常	針	高	30	★	速	中	中	中	難	生垣,食餌植物	サワラより姿上品
ヒマラヤスギ	まつ科	常	針	高	40	○	速	中	中	中	中	刈込物	大木移植可能,肥沃地を好む インド・ヒマラヤ原産
ピラカンサ (タチバナモドキ)	ばら科	常	広	低	3	○	速	強	中	中	難	生垣,刈込物,実物(色は赤,黄),食餌植物	別名ピラカンサ,トキワサンザシ
ヒラドツツジ	つつじ科	常	広	低		○						花木(花色多し) 公園・緑地、庭園、工場、街	
フウ (タイワンフウ)	まんさく科	落	広	高	15	○	速		やや強	中	易	路樹、景観樹、緑陰樹 紅葉	アメリカフウより耐寒性は劣る
フジ(ノダフジ)	まめ科	落	蔓			○	中	中	中	湿	易		
フヨウ	あおい科	落	広	低	1~3	○	速	強	強	湿	中	花木(花色赤桃白)	移植をきらう
ボケ	ばら科	落	広	低	1.5	○	速	強	中	中	中	刈込物,生垣,花木	変種にヒボケ,シロボケ,ヨドボケあり,花の色多し
マサキ	にしきぎ科	常	広	高	3~5	●	速	強	強	中	易	生垣,食餌植物	
マダケ	いね科	竹		高	10~18	○	速	中	中	乾	中		中国原産
マテバシイ	ぶな科	常	広	高	10	○	速	強	強	中	中	高垣,食餌植物	
マユミ	にしきぎ科	落	広	高	5	○	中	中	中	湿	易	実物	種子は紅色,雌雄異株
マンリョウ	やぶこうじ科	常	広	低	0.5~1.0	●	遅	強	中	湿	易	実特物,食餌植物	
ミヤギノハギ	まめ科	落	広	低	2	○	速	中	中	中	易	花木	傾斜面の土留用とする
ムクゲ	あおい科	落	広	低	2~5	○	速	強	中	湿	易	生垣,花木(花色多し)	陰地に耐える。中国原産
ムベ	あけび科	常	蔓			○	速	中	中	湿	易	アーチ,パーゴラ,垣根	やや耐潮性あり 陽当地に耐える
ムラサキシキブ	くまつぶら科	落	広	低	3~5	★	速	中	中	中	易	実物(紫)	白実のものがある
メタセコイヤ (アケボノスギ)	すぎ科	落	針	高	30	○	速	中	強	湿	易	緑陰	公園,学校などの記念樹, 中国原産
モウソウチク	いね科	竹		高	15~20	○	速	中	中	乾	中		中国原産
モチノキ	もちのき科	常	広	高	8	●	遅	強	強	中	易	生垣,食餌植物	陽光地に耐える 大木移植可能,雌雄異株
モッコク	つばき科	常	広	高	10~15	●	遅	強	強	中	中	生垣,刈込物,食餌植物	陽光地に耐える 大木移植可能,雌雄異株
モミ	まつ科	常	針	高	30~50	★	速	弱	中	乾	難		剪定をきらう 生長幼木遅く仕木速い
ヤダケ	いね科	竹		高	2~5	●	速	強	中	乾	易		地下茎は遠くへ走らない
ヤツデ	うごぎ科	常	広	低	2~3	●	速	強	強	中	易	食餌植物	大気汚染に強い
ヤブツバキ	つばき科	常	広	高	15	●	遅	強	強	中	難	花木(花色赤,白),生垣,食餌植物	園芸品種多し
ヤマザクラ	ばら科	落	広	高	10	○	速	弱	弱	中	難	花木	近縁にオオヤマザクラあり,大枝剪定は避ける。
ヤマブキ	ばら科	落	広	低	2	★	速	中	中	湿	易	花木(黄,白)	変種にヤエヤマブキあり, 花が白いのシロヤマブキ
ヤマモモ	やまもも科	常	広	高	15	★		強	強	中	中		成木は陽樹,果樹,山取物あり,肥料木, 雌雄異株
ユキヤナギ	ばら科	落	広	低	1~1.5	★	速	強	強	中	易	花木	
ユリノキ	もくれん科	落	広	高	30	○	速	中	中	中	難		北米中部原産
ライラック (ムラサキハンドイ)	もくせい科	落	広	高	2~6	○	中	中	中	中	易	花木	半陰地にも生育,芳香,欧州原産
ラカンマキ	まき科	常	針	高	10	○	やや速		強	中	中	日本庭園の代表的な重厚感のある主大、生垣	生長はイヌマキより遅く、寒さに やや弱い
ラクウショウ	すぎ科	落	針	高	25	★	速	中	弱	湿	易	緑陰,生垣	沼地など水湿地に適す,石灰岩地好む,北米南部原産
レンギョウ	もくせい科	落	広	低	3	○	速	中	中	中	易	花木	雌雄異株

6) 樹木などの保全

6) - 1 樹木などの保全

景観形成基準

- 敷地内に生育する樹林は、保存するよう努めます。やむを得ず伐採するときは、必要最小限にとどめます。

景観エリア	:	緑
-------	---	---

- 樹姿又は樹勢が優れた良好な樹木がある場合は、修景に生かすよう配慮します。ただし、これにより難しい場合は、移植の適否を判断し、その周辺に移植するよう努めます。移植後は十分な管理を行い、樹勢の回復を図ります。

景観エリア	:	緑	低	市	沿	商	工
-------	---	---	---	---	---	---	---

- ▶ **解説** 敷地内に既存の樹木がある場合は、その樹木をできるかぎり修景に生かせるよう建築物などの配置を検討します。樹姿や樹勢が優れた樹木の保存が難しい場合は、できるかぎり周辺に移植し、樹勢の回復を図ります。

木竹の伐採を行うにあたっては、周辺景観への影響に配慮するとともに、事前に樹木の樹種、樹齢、樹形などの価値を調査・検討を行います。

やむを得ず伐採を行った場合は、その周辺景観が良好に維持できるように補完措置や代替え措置を講じます。



地域の歴史的な景観を構成する重要な要素のひとつとなっている黒松を保存することにより、その景観が保たれている例



地域のシンボルとなる巨老木を保存することにより、歴史的なまちなみが保たれている例

(2) 工作物の新築、改築または増築

1) 煙突、ごみ焼却施設、アンテナ、鉄筋コンクリート造りの柱、鉄柱その他これらに類するもの、記念塔、電波塔、物見塔その他これらに類するもの及び高架水槽

景観形成基準	解説
○ 周辺に与える威圧感及び突出感を軽減し、修景緑化を図るための空地を確保するため、敷地境界線から極力後退します。 景観エリア： 緑 低 市 沿 商 工 都河 自河	①
○ 樹姿又は樹勢が優れた良好な樹木がある場合は、修景に生かすよう配慮します。ただし、これにより難しい場合は、移植の適否を判断し、その周辺に移植するよう努めます。移植後は十分な管理を行い、樹勢の回復を図ります。 景観エリア： 緑 低 市 沿 商 工 都河 自河 ○ 敷地内に生育するヨシ原などは、保存するよう努めます。 景観エリア： 緑	②
○ すっきりとした形態及び意匠とします。 景観エリア： 緑 低 市 沿 商 工 都河 自河	③
○ 落ち着いた色彩で周辺景観との調和を図ります。 景観エリア： 緑 低 市 沿 商 工 都河 自河	④
○ 周囲への威圧感や突出感を和らげるよう、高さを勘案した樹種及び樹木を選び、植栽位置を考慮します。 景観エリア： 緑 低 市 沿 商 工 都河 自河 ○ 植栽は、現存植生を考慮し、周辺環境と調和する樹種とします。 景観エリア： 緑 低 市 沿 商 工 都河 自河	⑤

▶ 解説 ① 敷地境界線からの後退

工作物などは周辺の景観に圧迫感や威圧感を与えることがないように、できるかぎり敷地境界線から後退します。特に道路などの公共用地に接する敷地境界線からはできるかぎり大きく後退し、建築物などの威圧感・圧迫感を軽減するだけでなく、ゆったりとした道路景観を形成します。

また、同一敷地内に複数の工作物などが設置される場合は、なるべく1箇所にまとめるよう配慮します。



敷地境界線から後退し、植栽を行なうことで道路への威圧感、圧迫感を軽減した機械式駐車場の例

参照： P 21 「（１）建築物の新築、改築または増築 ３）敷地内における位置」

② 既存樹木等への配慮

琵琶湖のヨシ原（群落）は、魚や鳥などの住処であるとともに、琵琶湖とともにある大津らしい風景のひとつでもあります。このヨシ原（群落）を健全に維持管理するために、昔から人々の生活に密着して冬の刈取り、火入れなどの作業が行われており、人々の生活に基づいた風物詩となっています。

近年の社会変化の中で、その貴重なヨシ原（群落）は減少傾向にあることから、ヨシ原が敷地内にある場合は、できるかぎり保存するように努めます。



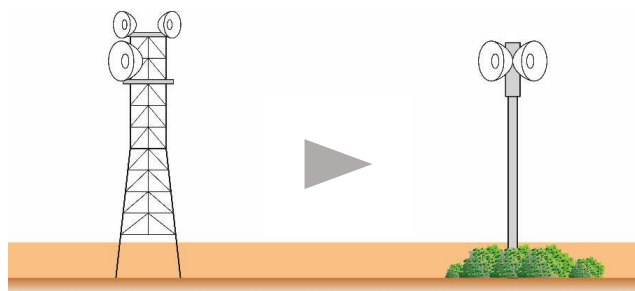
雄琴付近のヨシ原

参照： P 39 「（１）建築物の新築、改築または増築 ６）樹木などの保全」

▶ 解説 ③ すっきりとした印象への配慮

工作物の形態・意匠については、周辺景観との調和が得られるよう、機能と構造強度を考慮したうえで、構造体そのものをスマートなデザインとしたり、ルーバーの取り付けなどの景観的処理を行うことで、できるかぎりすっきりとした印象となるよう配慮します。

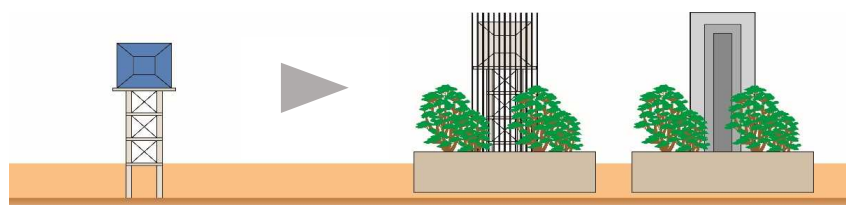
電波塔の場合



煙突の場合



高架水槽の場合



参照： P3「(1) 建築物の新築、改築または増築 1) 形態・意匠」

▶ 解説 ④ 周辺環境との調和した色彩への配慮

周辺景観との調和が得られるよう、鉄塔などのフレーム状の形態をもつ工作物の色彩は、山間部など緑の自然豊かな地域においては焦げ茶色、それ以外は灰色（亜鉛メッキ色）を基本とします。亜鉛メッキの光沢が、景観を阻害する要素となる恐れがあるため、メッキ後にリン酸処理を施したり、耐候性鋼材を使用してメッキを省略するなど、周辺の景観と調和するよう配慮します。

原則として、計画地を中心に概ね半径 5km 以内の範囲にある主要な視点場（不特定多数の人が利用する道路や公園、公共施設など）から望見した場合に、背景となる景観の大半が天空であれば灰色（亜鉛メッキ色）に、山並みや樹林であれば焦げ茶色と判断します。



背景となる景観に合わせて灰色に着色した例



背景となる景観に合わせて焦げ茶色に着色した例

参照： P12「(1) 建築物の新築、改築または増築 2) 色彩」

なお、高さが 60m 以上の鉄塔など、航空法により赤白の着色（昼間障害標識）もしくは高光度航空障害灯又は中光度白色航空障害灯の設置が求められる場合は、なるべく高光度航空障害灯又は中光度白色航空障害灯とし、周辺の景観との調和に配慮します。

※主要な視点場： 湖岸、湖上、湖岸道路、琵琶湖近傍の史跡名勝などにおいて不特定多数の人が利用する場所

- ・レクリエーション施設（眺望台、公園、水泳場など）
- ・公共公益施設（博物館、公民館、運動施設、道の駅など）
- ・自然公園、都市公園施設（湖岸緑地他）
- ・史跡名勝（史跡、神社仏閣他）
- ・交通施設（港湾、湖岸道路、航路など）

⑤ 外構部の緑化の配慮

施設の規模、形状に合わせ、敷地内の緑化を積極的に施します。

敷地の外周部は、道路から容易に望見できないよう、遮蔽性の高い生垣などで緑化します。また、常緑の中高木をとり入れた緑化により、1年を通して修景の効果が上がるよう、配慮します。

ただし記念塔などで、周辺の景観を引き立たせ、地域の良いシンボルとなると判断され、かつ、樹木の植栽が好ましくない場合は、その限りではありません。

参照： P28 (1) 建築物の新築、改築または増築 5) 敷地内の緑化

2) 彫像その他これに類するもの

景観形成基準	解説
○ 周辺景観に調和した形態及び意匠とし、けばけばしい色彩としません。 景観エリア： 緑 低 市 沿 商 工 都河 自河	①
○ 修景緑化を施します。 景観エリア： 緑 低 市 沿 商 工 都河 自河	②
○ 植栽は、現存植生を考慮し、周辺環境と調和する樹種とします。 景観エリア： 緑	

▶ 解説 ① 地域の景観になじむ形態・意匠

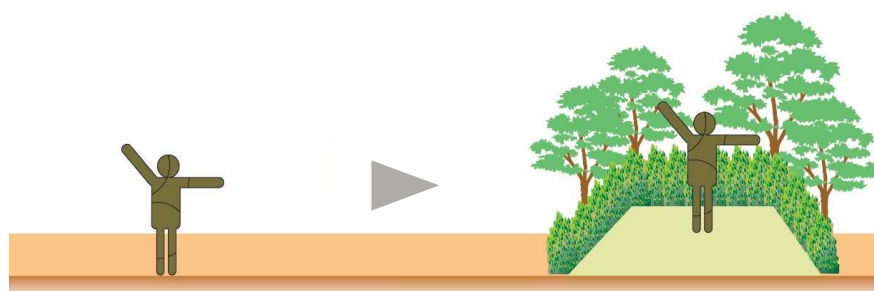
彫像やモニュメントなどの形態・意匠は、原則として地域の景観になじみ、その景観を引き立たせるようなものとします。色彩についても、原則として地域の景観を阻害するけばけばしい色彩のものは避けます。やむを得ず特異なものを設ける場合は、道路から容易に望見できない位置に設けるか、敷地外周部に遮へい措置を講じます。

ただし周辺の景観を引き立たせ、地域の良好なシンボルとなると認められる場合や、芸術作品展などの開催に伴い一時的に設置するものは除きます。

参照： P 3 「(1) 建築物の新築、改築または増築 1) 形態・意匠」
P 12 「(1) 建築物の新築、改築または増築 2) 色彩」

② 積極的な敷地内の緑化

彫像を引き立たせるとともに、周辺景観との調和を図るため、積極的に敷地内を緑化します。特に道路から後退してできる空地は、緑化に努めます。





周辺の景観に調和した落ち着いた色彩の彫像の例



周辺の景観に調和した落ち着いた色彩、形状の彫像の例



積極的な緑化により、彫像を引き立たせるとともに、周辺景観との調和を図った例

参照： P 28 「（１）建築物の新築、改築または増築 ５）敷地内の緑化」

3) 汚水または廃水を処理する施設

景観形成基準	解説
○ 敷地境界線から極力後退します。 景観エリア : 緑 低 市 沿 商 工 都河 自河	①
○ 敷地内に生育する樹林は保存するよう努めます。やむを得ず伐採するときは、必要最小限にとどめます。 景観エリア : 緑 低 市 沿 商 工 都河 自河 ○ 樹姿や樹勢が優れた良好な樹木がある場合は、修景に生かすよう配慮します。ただし、これにより難しい場合は、移植の適否を判断し、その周辺に移植するよう努めます。移植後は十分な管理を行い、樹勢の回復を図ります。 景観エリア : 緑 低 市 沿 商 工 都河 自河 ○ 敷地内に生育するヨシ原などは、保存するよう努めます。 景観エリア : 緑	②
○ 平滑な大壁面が生じないように、陰影効果に配慮するとともに、外部に設ける配管類は、目立たなくします。 景観エリア : 緑 低 市 沿 商 工 都河 自河	③
○ けばけばしい色彩とせず、落ち着いた色彩で周辺景観との調和が得られるものとします。 景観エリア : 緑 低 市 沿 商 工 都河 自河	④
○ 敷地外周部は、生垣などで緑化し、容易に望見できないようにします。 景観エリア : 緑 低 市 沿 商 工 都河 自河 ○ 常緑の中・高木を取り入れた樹木により修景緑化を図ります。 景観エリア : 緑 低 市 沿 商 工 都河 自河 ○ 植栽は、現存植生を考慮し、周辺環境と調和する樹種とします。 景観エリア : 緑	⑤

▶ 解説 ① 敷地境界線からの後退

参照： P 21 「（１）建築物の新築、改築または増築 ３）敷地内における位置」

② 既存樹木等への配慮

琵琶湖のヨシ原（群落）は、魚や鳥などの住処であるとともに、琵琶湖とともにある大津らしい風景のひとつでもあります。このヨシ原（群落）を健全に維持管理するために、昔から人々の生活に密着して冬の刈取り、火入れなどの作業が行われており、人々の生活に基づいた風物詩となっています。

近年の社会変化の中で、その貴重なヨシ原（群落）は減少傾向にあることから、ヨシ原が敷地内にある場合は、できるかぎり保存するように努めます。

参照： P 39 「（１）建築物の新築、改築または増築 ６）樹木などの保全」
P 40 「（２）工作物の新築、改築または増築 １）煙突、ごみ焼却施設、アンテナ、鉄筋コンクリート造りの柱、鉄柱その他これらに類するもの、記念塔、電波塔、物見塔その他これらに類するもの及び高架水槽」

③ 圧迫感・威圧感の軽減

汚水、廃水処理施設の壁面は、周辺地域に圧迫感や威圧感を与えないよう、陰影効果を考慮して、表面の形状や色彩・素材などを工夫します。また、むき出しとなった配管類は、本体と同色の塗装を施したり、道路から見えにくいところにまとめることで、雑然とした印象を軽減します。

参照： P 3 「（１）建築物の新築、改築または増築 １）形態・意匠」

④ 周辺環境と調和した色彩の選択

参照： P 12 「（１）建築物の新築、改築または増築 ２）色彩」

⑤ 外構部の緑化の配慮

施設の規模、形状に合わせ、修景緑化を積極的に施します。

敷地の外周部は、道路から容易に望見できないよう、遮蔽性の高い生垣などで緑化します。

また、常緑の中高木をとり入れた緑化により、１年を通して修景の効果が上がるよう、配慮します。

参照： P 28 「（１）建築物の新築、改築または増築 ５）敷地内の緑化」



樹木により遮へいすることで、周辺景観に与える影響を軽減した例
敷地外から見たところ（左）



敷地内の様子（右）

4) メリーゴーラウンド、観覧車、飛行塔、コースター、ウォーターシュートなどの遊戯施設

景観形成基準	解説
○ 周辺に与える威圧感及び異様さを軽減し、空地を確保するため、敷地境界線から極力後退します。 景観エリア : 緑 低 市 沿 商 工 都河 自河	①
○ 樹姿又は樹勢が優れた良好な樹木がある場合は、修景に生かすよう配慮します。ただし、これにより難しい場合は、移植の適否を判断し、その周辺に移植するよう努めます。移植後は十分な管理を行い、樹勢の回復を図ります。 景観エリア : 緑 低 市 沿 商 工 都河 自河 ○ 敷地内に生育するヨシ原などは、保存するよう努めます。 景観エリア : 緑	②
○ 敷地外周部は、規模に応じた樹木で、周辺景観との緩衝帯となる植栽を行います。 景観エリア : 緑 低 市 沿 商 工 都河 自河 ○ 植栽は、現存植生を考慮し、周辺環境と調和する樹種とします。 景観エリア : 緑	③

▶ 解説 ① 敷地境界線からの後退

参照： P 21 「(1) 建築物の新築、改築または増築 3) 敷地内における位置」

② 既存樹木等への配慮

参照： P 39 「(1) 建築物の新築、改築または増築 6) 樹木などの保全」
P 40 「(2) 工作物の新築、改築または増築 1) 煙突、ごみ焼却施設、アンテナ、鉄筋コンクリート造りの柱、鉄柱その他これらに類するもの、記念塔、電波塔、物見塔その他これらに類するもの及び高架水槽」

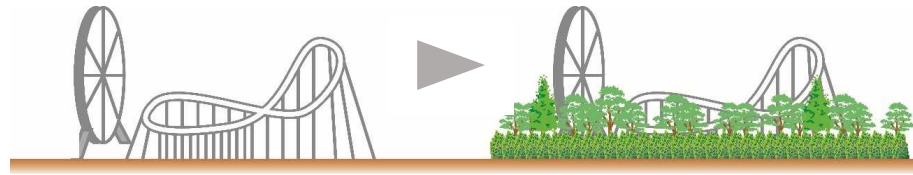
③ 外構部の緑化の配慮

これらの施設は、周辺の景観と調和しにくく、形態・意匠・色彩の面から特殊な景観となることから、周辺景観に与える影響を和らげるため、できるかぎり遮蔽に努めるとともに、積極的な修景緑化などを行います。

これらの施設には、観覧車など眺望を目的とした施設や相当の高さを有する施設など、遮へいが不可能な施設もあるため、施設外周部にボリュームのある緑化措置を講じることで、周辺の景観からの突出感を緩和します。

これらの施設により、あえて特徴的な景観をデザインする場合においても、周辺景観とのバランスに配慮します。

遊園地などにおいては、施設の用途上、さまざまな種類の樹木が植栽されることが予想されますが、敷地境界線に面した部分と湖岸や湖岸道路に接する部分については、特に現存植生に配慮したものとします。



参照： P 28 「（１）建築物の新築、改築または増築 ５）敷地内の緑化」

5) アスファルトプラント、コンクリートプラント、クラッシャープラントその他これらに類する製造施設及び石油、ガス、LPG、穀物、飼料などを貯蔵する施設その他これらに類するもの

景観形成基準	解説
○ 周辺に与える威圧感及び突出感を軽減するため、敷地境界線から極力後退します。 景観エリア : 緑 低 市 沿 商 工 都河 自河	①
○ 樹姿又は樹勢が優れた良好な樹木がある場合は、修景に生かすよう配慮します。ただし、これにより難しい場合は、移植の適否を判断し、その周辺に移植するよう努めます。移植後は十分な管理を行い、樹勢の回復を図ります。 景観エリア : 緑 低 市 沿 商 工 都河 自河 ○ 敷地内に生育するヨシ原などは、保存するよう努めます。 景観エリア : 緑	②
○ 壁面、構造などの意匠が周辺景観に調和するよう配慮し、外部に設ける配管類は、目立たなくします。 景観エリア : 緑 低 市 沿 商 工 都河 自河	③
○ 落ち着いた色彩で周辺景観との調和を図ります。 景観エリア : 緑 低 市 沿 商 工 都河 自河	④
○ 周辺への威圧感や突出感を和らげるよう、高さを勘案した樹種及び樹木を選び、植栽位置を考慮します。 景観エリア : 緑 低 市 沿 商 工 都河 自河 ○ 植栽は、現存植生を考慮し、周辺環境と調和する樹種とします。 景観エリア : 緑	⑤

▶ 解説 ① 敷地境界線からの後退

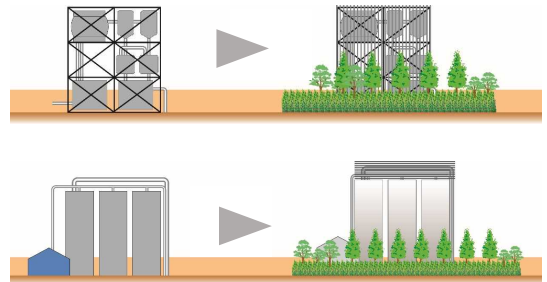
参照： P 21 「（１）建築物の新築、改築または増築 ３）敷地内における位置」

② 既存樹木等への配慮

参照： P 39 「（１）建築物の新築、改築または増築 ６）樹木などの保全」
P 40 「（２）工作物の新築、改築または増築 １）煙突、ごみ焼却施設、アンテナ、鉄筋コンクリート造りの柱、鉄柱その他これらに類するもの、記念塔、電波塔、物見塔その他これらに類するもの及び高架水槽」

③ 圧迫感・威圧感の軽減

これらの工作物の壁面は、周辺地域に圧迫感や威圧感を与えないよう、陰影効果に配慮します。また主となる構造や施設に付属するむき出しとなった配管類やコンベアー類は、構造体そのものの形態を見直したり、道路から見えにくいところへの配置、ルーバーの取り付け、本体と同色の塗装などの景観的处理を行うことで、できるかぎりすっきりとした印象となるよう配慮します。



参照： P3「(1) 建築物の新築、改築または増築 1) 形態・意匠」

④ 周辺環境と調和した色彩の選択

参照： P12「(1) 建築物の新築、改築または増築 2) 色彩」

⑤ 外構部の緑化の配慮

参照： P28「(1) 建築物の新築、改築または増築 5) 敷地内の緑化」

6) 電気供給のための電線路、有線電気通信のための線路又は空中線系（その支持物を含む。）

景観形成基準	解説
○ 山稜の近くでは、稜線のシルエットを乱さないよう、尾根から極力低い位置とします。 景観エリア： 緑 低 市 沿 商 工 都河 自河	①
○ 雑然とした景観とならないよう配慮し、落ち着いた色彩とします。 景観エリア： 緑 低 市 沿 商 工 都河 自河	②

▶ 解説

① 設置位置の稜線への配慮

本市の景観の特徴である山並の尾根線の美しいシルエットに配慮し、送電鉄塔は、山りょうの近傍にあっては、稜線を乱さないよう、尾根からできるだけ低い位置とします。横断するものについてはその限りではありません。



稜線を乱さないよう、尾根からできるだけ下げて設置した例

② 形態の簡素化と周辺と調和した色彩の選択

送電線鉄塔が林立することにより雑然とした景観とならないよう、形態の簡素化を図ります。

色彩は、周辺との調和に配慮した落ち着いた色彩とし、季節による周辺の色彩の変化を考慮して色調を決めます。

鉄塔などのフレーム状の形態をもつ工作物の色彩は、山間部など緑の自然豊かな地域においては焦げ茶色や暗緑色、立体的な背景の少ないところにあっては天空になじませるためグレー系の亜鉛メッキした後にリン酸処理を施し、くすんだ外観とすることを基本とします。

また、亜鉛メッキの光沢を抑えるため、耐候性鋼材を使用してメッキを省略するなどの対応も考えられます。



背景の山並みの景観に配慮し、焦げ茶色とすることで、周辺の景観と調和させた例



基部の緑化により鉄塔の持つ圧迫感を軽減させ、周辺景観との調和を図った例

参照： P 40 「(2) 工作物の新築、改築または増築 1) 煙突、ごみ焼却施設、アンテナ、鉄筋コンクリート造りの柱、鉄柱その他これらに類するもの、記念塔、電波塔、物見塔その他これらに類するもの及び高架水槽」

⑤ 外構部の緑化の配慮

参照： P 28 「(1) 建築物の新築、改築または増築 5) 敷地内の緑化」

(3) 開発行為

1) のり面などの修景

景観形成基準	解説
○ 造成などにおいては既存樹木を保存するよう配慮します。 景観エリア： 緑 低 市 沿 商 工 都河 自河	①
○ 造成などに係る切土及び盛土に伴い生じたのり面には、適切な植栽を行います。 景観エリア： 緑 低 市 沿 商 工 都河 自河	②
○ 擁壁などの構造物は、石材などの自然素材を用います。ただし、これにより難しい場合はこれを模したものをを用います。これらの素材を用いることができない場合は、壁面の緑化、構造物前面の植栽などによる修景措置を講じます。 景観エリア： 緑 低 市 沿 商 工 都河 自河	③

▶ 解説 ① 既存樹木等への配慮

参照： P39「(1) 建築物の新築、改築または増築 6) 樹木などの保全」

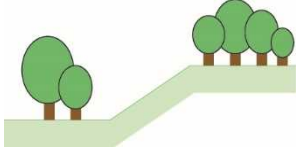
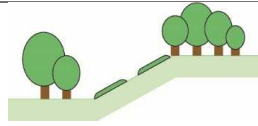
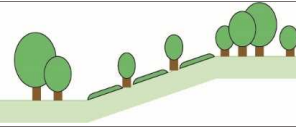
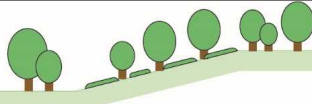
② のり面への適切な植栽

造成などに伴って生じたのり面に適切な植栽を行うことにより、土砂の流出や法面の崩壊を防ぐとともに、緑豊かな景観を形成します。

参照： P28「(1) 建築物の新築、改築または増築 5) 敷地内の緑化」

のり面勾配と樹木の関係

のり面の緑化を行う際は、あらかじめそれに見合ったのり勾配や植栽地盤の造成が必要です。勾配ごとに植栽可能な樹木の目安は以下のとおりです。

勾配		断面パターン	植栽可能樹木
1 : 1.5 (66.6%) (33° 40')			地被 芝
1 : 1.8 (55%) (29° 3')			地被 低木
1 : 1.5 (33.3%) (18° 30')			地被 低木 中木
1 : 1.5 (25%) (14° 00')			地被 低木 中木 高木

出典：造園施行管理技術編（監修／国土交通省都市局公園緑地課）



造成に際し、のり面を適切に緑化することで新しいまちなみ景観に潤いを与えている例

参 考	高	木	植栽時に 3m以上の樹木
	低	木	植栽時に0.6m以下の樹木
	中	木	植栽時に0.6m以上の樹木
	地	被	地上を被う草本類を中心としたグランドカバー植物

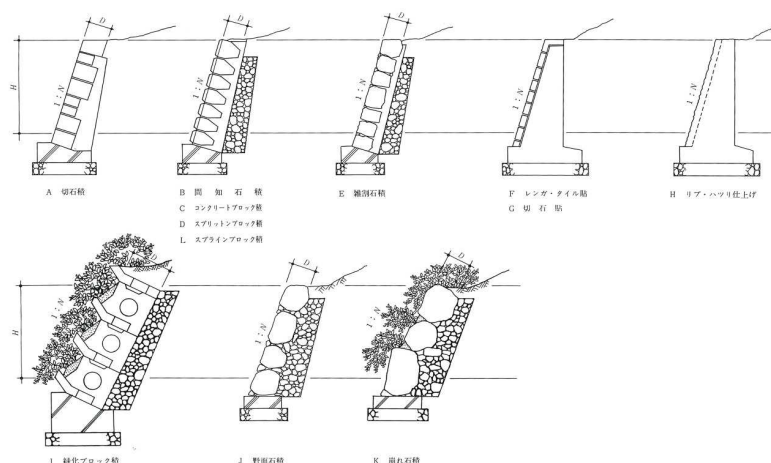
▶ 解説 ③ 自然環境を保存した造成の工夫

造成に伴い整備されるコンクリート擁壁は、その大きさや素材感から、地域の景観を無機質なものにする恐れがあります。造成に際しては、できるかぎり自然環境を保存するよう努めるとともに、景観に配慮した構造物のあり方を工夫します。

構造物の素材は、周辺の景観に調和する石材などの自然素材を用いることを基本とします。やむを得ず、天然素材以外の材料を使用する場合は、これを模したものをを用いることで景観との調和を図ります。自然素材やそれを模した素材も用いることができない場合は、壁面の緑化、構造物前面の植栽、化粧型枠などにより積極的に景観的措置を講じます。

特に、道路（管理用の通路は除く）、都市河川若しくは公園に面して、おおむね高さ2 m以上の擁壁を設ける場合は、周辺景観に与える影響が大きいことから、その勾配や壁面形状を変化させるなど、圧迫感や威圧感を軽減する修景措置を講じます。

擁壁の種類



擁壁を石積みとすることで歴史的なまちなみ景観を維持している例



コンクリート擁壁の壁面に植栽を行うことで背後の山並みと調和した潤いのある景観を形成している例



コンクリートの擁壁を化粧型枠により修景処理することでまちなみ景観に変化を与えている例

2) その他

景観形成基準

- 開発行為の区域において継続的な景観形成ができるよう、地区計画、景観協定、建築協定及び緑地協定などを定めるよう努めます。

景観エリア

:

緑

低

市

沿

商

工

都河

自河

(4) 太陽光発電設備の新築、改築または増築

1) 共通事項

景観形成基準

- 太陽光発電設備のパネルは、黒または濃紺もしくは低彩度・低明度の色彩とし、低反射でできるだけ模様が目立たないものとします。

景観エリア	:	緑	低	市	沿	商	工	都河	自河
-------	---	---	---	---	---	---	---	----	----

- 太陽光発電設備の付属設備は、周辺景観と調和した色彩とします。

景観エリア	:	緑	低	市	沿	商	工	都河	自河
-------	---	---	---	---	---	---	---	----	----

- ▶ **解 説** 付属設備の外観色彩は、周辺の樹木の緑、土や水などの自然の色と馴染みやすい、暖色系の低彩度の色としてください。

参照： P3「(1) 建築物の新築、改築または増築 1) 形態・意匠」

2) 地上に設置する平面的に並べるもの（平面型）

景観形成基準

- 敷地境界線から極力後退します。

景観エリア : 緑 低 市 沿 商 工 都河 自河

- 敷地内に生育する樹林は保存するよう努めます。やむを得ず伐採するときは、必要最小限にとどめます。

景観エリア : 緑 低 市 沿 商 工 都河 自河

- 樹姿や樹勢が優れた良好な樹木がある場合は、修景に生かすよう配慮します。ただし、これにより難しい場合は、移植の適否を判断し、その周辺に移植するよう努めます。移植後は十分な管理を行い、樹勢の回復を図ります。

景観エリア : 緑 低 市 沿 商 工 都河 自河

- 敷地内に生育するヨシ原などは、保存するよう努めます。

景観エリア : 緑 低 市 沿 商 工 都河 自河

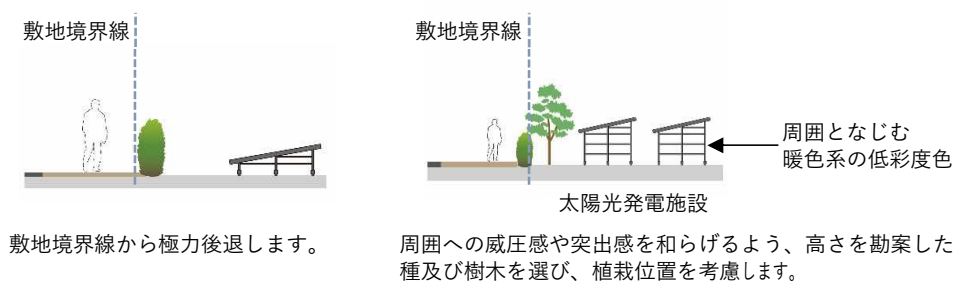
- 常緑の中・高木を取り入れた樹木により修景緑化を図り、最上部は、修景植栽の高さより低くし、可能な限り周囲から望見できないように努めます。

景観エリア : 緑 低 市 沿 商 工 都河 自河

- 植栽は、現存植生を考慮し、周辺環境と調和する樹種とします。

景観エリア : 緑 低 市 沿 商 工 都河 自河

- ▶ **解説** 周囲から太陽光発電施設が見えにくくなるように、修景緑化を配置します。通りに面して緑化を行う場合は、まちなみの連続性に配慮してください。



3) 地上に設置する支柱上に設けるもの（支柱型）

景観形成基準

- 周辺に与える威圧感及び突出感を軽減し、修景緑化を図るための空地を確保するため、敷地境界線から極力後退します。

景観エリア : 緑 低 市 沿 商 工 都河 自河

- 樹姿又は樹勢が優れた良好な樹木がある場合は、修景に生かすよう配慮します。ただし、これにより難しい場合は、移植の適否を判断し、その周辺に移植するよう努めます。移植後は十分な管理を行い、樹勢の回復を図ります。

景観エリア : 緑 低 市 沿 商 工 都河 自河

- 敷地内に生育するヨシ原などは、保存するよう努めます。

景観エリア : 緑 低 市 沿 商 工 都河 自河

- すっきりとした形態及び意匠とします。

景観エリア : 緑 低 市 沿 商 工 都河 自河

- 落ち着いた色彩で周辺景観との調和を図ります。

景観エリア : 緑 低 市 沿 商 工 都河 自河

- 周囲への威圧感や突出感を和らげるよう、高さを勘案した樹種及び樹木を選び、植栽位置を考慮します。

景観エリア : 緑 低 市 沿 商 工 都河 自河

- 植栽は、現存植生を考慮し、周辺環境と調和する樹種とします。

景観エリア : 緑 低 市 沿 商 工 都河 自河

- ▶ **解説** 周囲から太陽光発電施設が見えにくくなるように、修景緑化を配置します。通りに面して緑化を行う場合は、まちなみの連続性に配慮してください。



敷地境界線から極力後退します
周囲への威圧感や突出感を和らげるよう、高さを勘案した樹種及び樹木を選び、植栽位置を考慮します

